

沖縄県

歯科医師会誌

The Journal of the Okinawa Dental Association

2023.January Vol 1



Topics

- ★**新年のご挨拶** 一般社団法人沖縄県歯科医師会 会長 米須敦子
- ★**年頭所感** 公益社団法人日本歯科医師会 会長 堀 憲郎
- ★**沖縄県歯科医師会新年会**
- ★**第36回沖縄県歯科医学会**
- ★**受章おめでとうございます**
 - 令和4年度 旭日双光章 久場良明 令和4年度 瑞宝双光章 千葉章規
 - 令和4年度 厚生労働大臣表彰 高嶺明彦 令和4年度 文部科学大臣表彰 護得久朝保
- ★**ゴルフに魅せられて** 南部地区会員 上原 淳
- ★**オアシス**
 - ・ 皴 南部地区会員 伊禮昭洋
 - ・ IT機器 (Information Technology) 南部地区会員 伊禮昭洋
- ★**登院式**



(一社)沖縄県歯科医師会



表紙写真

「八重岳より伊江島を望む」

撮影者
島袋 亮

content

新年のご挨拶	一般社団法人沖縄県歯科医師会 会長	米 須 敦 子	… 3
年頭所感	公益社団法人日本歯科医師会 会長	堀 憲 郎	… 4
令和4年度 沖縄県歯科医師会新年会	広報委員会委員長	長 堂 芳 子	… 5
● 県歯報告 ●			
・第36回沖縄県歯科医学会	学術委員会委員	新 崎 博 文	… 9
・第36回 沖縄県歯科医学会プログラム			… 10
● 県外報告 ●			
・第39回日本障害者歯科学会総会および学術大会	口腔保健医療センター診療部長	平 塚 正 雄	… 18
・第4回 中国四国女性歯科医会講演会・協議会・懇親会	会 長	米 須 敦 子	… 19
・令和4年度都道府県歯科医師会広報担当者理事連絡協議会	調査広報担当理事	梅 村 誠	… 21
・「九州」「中国・四国」地区歯科医師会役員連絡協議会	専務理事	渡 慶 次 彰	… 22
● 県内報告 ●			
・健康おきなわ21(第二次)等最終評価・次期計画策定に係る総括委員会	副会長	屋 嘉 智 彦	… 23
・令和4年度歯科医療従事者技術向上支援研修会	学術委員会 委員	岡 村 健 司	… 26
・令和4年度第2回沖縄県認知症疾患連携協議会	会 長	米 須 敦 子	… 27
・令和4年度 歯科衛生士復職支援セミナー	学術委員会副委員長	新 城 美由紀	… 29
□受章おめでとうございます			
令和4年度 旭日双光章		久 場 良 明	… 30
令和4年度 瑞宝双光章		千 葉 章 規	… 31
令和4年度 厚生労働大臣表彰		高 嶺 明 彦	… 32
令和4年度 文部科学大臣表彰		護 得 久 朝 保	… 33
□第74回 九地連 テニス大会に参加して	上地歯科医院	上 地 智 博	… 34
□令和4年度 赤い羽根共同募金のご寄付について (お礼)			… 35
□令和4年度 登院式	沖縄県歯科衛生士学校教務部長	中 地 昭 雄	… 36
□新職員紹介 許田 重尊			… 37
□ゴルフに魅せられて…… (医) 健生会 上原歯科クリニック	上 原 淳 (浦添)		… 38
□オアシス 皺	南部地区会員	伊 禮 昭 洋	… 47
IT機器 (Information Technology)	南部地区会員	伊 禮 昭 洋	… 48
□新聞歯科コラム			… 51
□地方紙だより			… 52
□理事会報告			… 54
□編集後記			… 59
□8020達成者認定証の発行について			… 60
□会員動向			… 62



新年のご挨拶

一般社団法人沖縄県歯科医師会 会長 米須 敦子

あけましておめでとうございます。

2023年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

未だ新型コロナウイルス感染症との戦いが続いており、インフルエンザとの同時流行も懸念されております。一方で、オミクロン株は従来株と比べて重症化率が低い傾向にあることなどから感染症法上の類型見直しの議論も始まりました。社会が大きく変動する中、県民の健康向上のために日々の診療に真摯に対応頂き感謝と共に敬意を表します。

2023年は、「十干十二支」では「癸卯」（みずのとう）の年です。「癸」は次の新たな生命が成長し始めている状態を表しています。「卯」は十二支の4番目で、草木が萌え出る春の訪れを感じる時です。これらを合わせた「癸卯」は「厳しい冬が去り春の兆しが訪れる」、「これまでの努力が実り、芽吹き始める」といった年を予感させます。

令和5年度は新たに、歯科衛生士学校の授業料の見直しを行い、会員診療所に勤務する卒業生への奨学金の給付制度の開始と校舎の老朽化に対応するための資金積み立てを開始する予定です。口腔保健医療センターでは、「治療対応困難な小児等」の紹介が増加しています。円滑な対応のため毎月2週間ほど小児歯科専門医の採用、そして土曜日に対応できる勤務医を配置する予定です。また、今年度は全職員の聞き取り調査を行いました。その能力と個性を尊重してスキルアップすることで職場の効率をアップする為の人事異動等を行い組織の「変革」に向け

て新しい挑戦を続けています。少しずつ、しかし確実に、次世代への継承を行っています。それが今年「芽」を出し、目に見える成果につながるようになっていきたいと思っております。

沖縄県歯科医師会100周年記念誌「ももとせの道」をお届けできることになりました。先生方のご尽力と「強い思い」を持って頑張ってくださいましたことを心強く、その「恩恵」を次世代へと繋いでいく事そして、課題を一緒に共有して考えることの大切さを強く感じています。

うさぎのように跳躍し、飛躍する希望に満ちた1年にしていけるよう、しっかりと成果を出すとともに、今年出た「芽」がもっと未来に大きな花を咲かせることを見据えて取り組みを進め、次につなげていきたいと考えております。皆さまとともに、2023年も明るく希望に満ちた社会の実現に貢献してまいります。

本年もよろしく願い申し上げます。



年頭所感

公益社団法人日本歯科医師会 会長 堀 憲郎

明けましておめでとうございます。日歯会長として7回目の年頭所感になります。

私が日歯会長に就任したのは平成28年3月で、日歯連盟で起きた事件により歯科界全体が内外の批判にさらされていた混乱期でした。日歯には直接関係ない事件でしたが、会長としての緊急且つ最大の任務は「歯科医師会組織への信頼の回復」であり、倫理関係三規程の策定、内部統制室の立ち上げなど内部統制、コンプライアンスを改めて徹底し、歯科界一丸となった取り組みで、比較的早期にこの任務は理解を得られたと振り返ります。

何よりも会長就任の約3年後に、平成天皇の御在位30年を祝う宮中茶会にお招きを受けたときに「課せられていた信頼回復の任務に一定の目処がついた」と安堵したことを思い出します。

その後は、会長就任前の役員時代から認識していた歯科界の課題を「日歯の28課題」と整理して掲げ、「歯科界全体の活性化をはかること」を主眼とし「オールデンタル」の合言葉のもとで取り組んできました。会員の皆様をはじめとする多くのご理解を得て取り組んだ結果、例えば「新規技術の積極的開発と保険収載による歯科界の活性化」「超高齢社会の疾病構造に対応できる口腔機能低下症等の新病名の確立」「成長戦略、骨太の方針等の国の政策の核心部分への歯科医療の重要性の明記」「厚労省の歯科口腔保健推進室の昇格」「半世紀続いて来た歯科に不公平な薬価算定ルールの見直し」「日歯製作映画『笑顔の向こうに』のモナコ国際映画祭のグランプリ獲得」「2040年を見据えた歯科ビジョンの発表」など様々な成果が得られたと振り返ります。

中でも10年以上前の歯科界では「新機能・新技術」と区分される新しい画期的な技術の開発が皆無であり、改定時期以外に保険収載できる仕組みも全く活用されておらず、それを歯科界の構造的な課題と位置づけて、日本歯科医学会、産業界とスクラム

を組んでチャレンジし続けました。まだまだ十分とは言えませんが「CAD/CAM冠」「ファイバーポスト」「チタン冠」「マグネット義歯」等の保険収載は、未来に向けた歯科界の更なる活性化を期待させる成果であり、産業界を含むオールデンタルでの意識、機運は高まっていると感じます。

歯科界の活性化については、歯科医療費の動向がひとつの指標になります。例えば平成14年から21年に掛けては「医療費全体の伸びが国の財政を圧迫する」と問題になる中、「歯科医療費だけは減り続ける」という極めて危険な状況が存在しました。

それが平成22年以降は（コロナ感染症の影響で令和2年度がマイナスになった以外）一度もマイナスになることはありませんでした。平成23年から令和元年まで、金属材料の価格変動の影響を除いても平均1.2%の伸びを継続しています。

コロナ禍の前は、このような歯科界の明るい兆し、可能性の継続と増幅がみられ、歯科医療と口腔健康管理の重要性への国民の理解と期待はかつて無く高まっていたと確信します。

そのような現状認識をもとに、人口減少という大きな問題を抱える20年後の社会を見据えて令和2年秋にとりまとめたのが「2040年を見据えた歯科ビジョン」ですが、このビジョンは、申し上げてきた過去10年、20年の歯科界の取り組みと成果を総括し、未来に向けて国民の健康を守る立場での責任を明らかにしたものでもあります。

この歯科ビジョンが歯科界の明るい未来への航海の羅針盤となることを期待しつつ、今年こそ新型コロナウイルス感染症が終息し、コロナ前に歯科界に注いでいた陽光が戻ってくることを信じて年頭のご挨拶と致します。

令和4年度 沖縄県歯科医師会新年会

広報委員会委員長 長 堂 芳 子

令和5年1月12日午後7時からホテルコネクティブにて、3年ぶりの新年会が行われました。コロナ禍での新年会という事で、今回は来賓者の招待もなく会員のみ参加という形の開催としましたが88人の参加申込み者がありました。

幕開けの「かぎやで風」は大城一乃先生、地方は金城文信先生、大城正雄先生、上原喬先生が務められて華々しい幕開けでありました。乾杯の音頭は、比嘉なつみ参議院議員の力強いご発声で盛り上がりました。

叙勲、大臣表彰等の受章者の皆様もおめでとうございます。受章者代表では、金城光也先生がご挨拶をなさいました。

新入会員の先生方もそれぞれの抱負を語り、その言葉に彼らが次世代の歯科医師会を引き継いでいくであろう事に想いを馳せました。

久しぶりに再会を喜び合う会員の先生方の姿が会場いっぱいに見受けられて、顔を合わせてお互いの健康や近況を語り合う場は必要だということを再確認した新年会でした。



沖縄県歯科医師会新年会次第

日 時: 令和5年1月12日 (木) 午後7時

場 所: ホテルコネクティブ

司会 専務理事 渡慶次 彰

幕開け (かぎやで風)

大城 一乃

1. 開会のことば..... 専務理事 渡慶次 彰
2. 会長挨拶..... 会 長 米須 敦子
3. 県知事表彰・歯科医師会会長表彰
 県知事表彰 高良 政憲 長嶺 和弘 玉城 英人
 会長表彰 池村 浩明 高良 兼次 富島 修 嘉数 武男
 方 肇靖 福里 剛 山城 安貴 神元 龍一
4. 被表彰者代表挨拶..... 金城 光也
5. 新入会員紹介
6. 乾 杯..... 比嘉奈津美
7. 懇 談
 会員三味線演奏 (金城文信・大城正雄・上原喬)
 100周年の歩み、全麻下歯科治療30周年の歩み (パワーポイント)
8. 閉会のことば..... 副 会 長 屋嘉 智彦

令和4年度 沖縄県

医師会新年



歯科医師会新年会



令和4年受賞者一覧

伊計真智子	南部	R4.1.20	沖縄県母子保健大会県知事表彰（母子歯科保健功労）
長堂芳子	南部	R4.1.20	沖縄県母子保健大会長表彰（母子歯科保健功労）
玉城信則	中部	R4.1.30	沖縄県知事表彰（保健医療功労）
板倉繁哉	中部	R4.1.30	沖縄県知事表彰（保健医療功労）
漢那憲宜	八重山	R4.1.30	沖縄県知事表彰（保健医療功労）
金城康光	北部	R4.1.30	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
石川靖	北部	R4.1.30	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
国吉綾子	中部	R4.1.30	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
眞境名勉	南部	R4.1.30	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
加藤進作	南部	R4.1.30	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
比嘉千春	南部	R4.1.30	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
松原正明	宮古	R4.1.30	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
羽地都映	宮古	R4.1.30	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
我如古充	宮古	R4.1.30	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
平良和枝	宮古	R4.1.30	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
森岡成行	八重山	R4.1.30	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
上江田武	八重山	R4.1.30	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
砂川和徳	八重山	R4.1.30	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
漢那憲宜	八重山	R4.2.4	沖縄県学校保健会会長表彰（学校保健功労）
照屋均	南部	R4.2.4	沖縄県学校保健会会長表彰（学校保健功労）
玉城英人	南部	R4.2.4	沖縄県学校保健会会長表彰（学校保健功労）
護得久朝保	南部	R4.2.25	日本公衆衛生大会会長表彰（公衆衛生事業功労）
崎原日出雄	中部	R4.3.10	日本歯科医師会会員有功章（地域歯科医療の向上に貢献）
沖縄県歯科医師会		R4.3.12	沖縄県健康づくり表彰（がんじゅうさびら表彰）
玉城英人	南部	R4.3.23	日本学校歯科医会会長表彰（学校歯科保健功労）
饒波毅	中部	R4.3.23	日本学校歯科医会会長表彰（学校歯科保健功労）
大山佐千夫	八重山	R4.3.23	日本学校歯科医会会長表彰（学校歯科保健功労）
下地盛叶	宮古	R4.4.29	瑞宝双光章（学校保健功労）
金城光也	南部	R4.4.29	旭日双光章（保健衛生功労）
新垣元洋	南部	R4.5.20	那覇市政功労者表彰
山城正裕	南部	R4.7.28	那覇地区学校保健功労者表彰
沖縄県歯科医師会		R4.7.29	沖縄県共同募金会感謝状
比嘉千春	南部	R4.8.4	浦添市社会福祉大会表彰
高嶺明彦	南部	R4.10.29	厚生労働大臣表彰（歯科保健事業功労）
大山佐千夫	八重山	R4.10.29	日本歯科医師会会長表彰（歯科保健事業功労）
千葉章規	中部	R4.11.3	瑞宝双光章（学校保健功労）
久場良明	中部	R4.11.3	旭日双光章（保健衛生功労）
護得久朝保	南部	R4.11.10	文部科学大臣表彰（学校歯科保健功労）
米須敦子	中部	R4.11.15	沖縄市教育委員会表彰（学校保健功労）
高良政憲	南部	R5.1.12	沖縄県知事表彰（保健医療功労）
長嶺和弘	南部	R5.1.12	沖縄県知事表彰（保健医療功労）
玉城英人	南部	R5.1.12	沖縄県知事表彰（保健医療功労）
神元龍一	北部	R5.1.12	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
福里剛	中部	R5.1.12	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
高良兼次	南部	R5.1.12	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
富島修	南部	R5.1.12	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
嘉数武男	南部	R5.1.12	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
方肇靖	宮古	R5.1.12	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
池村浩明	宮古	R5.1.12	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）
山城安貴	八重山	R5.1.12	沖縄県歯科医師会会長表彰（歯科医師会発展功労）



• 県歯報告 •

第36回沖縄県歯科医学会

日時：令和4年11月3日（木）午前10時～午後1時15分
場所：オンライン（沖縄県口腔保健医療センター大研修室）

学術委員会委員 **新 崎 博 文**

口演発表（敬称略）

司会：学術委員会副委員長 新城美由紀

0-1 Somet preservation にCGFを使用した症例

南部地区 赤崎歯科 赤崎 栄

0-2 デジタルツールを活用した安心・安全・信頼される顎変形症治療を求めて

中部地区 ユニバーサル矯正歯科クリニック

崎原 盛貴

0-3 i teroによるデンチャー口腔外スキャンの方法について

南部地区 那覇デンタルクリニック 宮本 英欧

0-4 当科における「抜歯中断歯の抜歯依頼」に関する臨床的検討

医療法人八重瀬会 同仁病院

歯科口腔外科 吉田 誠

0-5 当科における周術期口腔機能管理 ～新型コロナ禍の影響は！？～

医療法人八重瀬会 同仁病院

歯科口腔外科 松堂 香織

0-6 小児歯科医としての地域活動

南部地区 医療法人進真会 くばがわ歯科医院

0-7 沖縄県立病院群の診療連携体制

沖縄県立中部病院 歯科口腔外科 立津 政晴

0-8 徳洲会病院歯科口腔外科における中部と南部の診療連携について

医療法人中部徳洲会病院

歯科口腔外科 仲宗根敏幸

0-9 Le-Fort 1型骨切術、下顎枝矢状分割術、オートガイ形成術による外科的矯正治療を適応したGummy Smile,下顎劣成長を伴う骨格性上顎前突、成人女性の2例

中部地区 医療法人 山内矯正歯科クリニック

山内 昌浩

0-10 かかりつけ歯科医師にしてほしい上顎犬歯の異所萌出「もう少し様子を見ましょう」はいつま

で？上顎前歯歯根吸収を惹起しないために

中部地区 医療法人 山内矯正歯科クリニック

山内 昌浩

特別講演 1

「災害犠牲者の身元確認のための歯牙鑑定について」

沖縄県歯科医師会 学術委員会委員長 金子智之

特別講演 2

「今、伝えておきたいこと」

南部地区 たから歯科院長 高良 政勝

特別講演感謝状贈呈

大会長 米須 敦子

毎年恒例の、沖縄県歯科医学会（第36回）が、今年も11月3日に開催された。

今年は、新型コロナ禍の中、Web開催の形式をとった。

Web申し込み66名、発表者11名、運営14人の参加者総計91人であった。

会員の口演発表においては、インプラント、デジタルデンティストリー、歯科口腔外科、周術期管理、小児歯科、矯正と各領域より、会員の興味を引きかつ演者の日々の診療に研鑽され御努力なさっている様子が伺える発表をして頂いた。

また、日頃の診療での我々会員が最もお世話になる機会の多い大学や公立病院及び中核病院の歯科口腔外科との連携においては、中部、南部・小児医療、北部、精和、宮古、八重山の各県立病院群と中部・南部の徳洲会歯科口腔外科との連携の最新の連携状況とネットワークおよび研修状況の詳細なる報告がなされた。我々会員にとっては、とても有難い環境が構築されてきており、会員からも謝意が述べられた。上記講演に対しての、チャットからも含めた、質疑応答が活発に述べられた。

また特別講演1は、金子委員長により、法歯学の歴史の総論と、医師薬出版社の書籍の「災害と身元確認」の詳細なる紹介を行いながら、近年の大規模災害

における、具体的な身元確認法と東北大青木孝文先生の「デンタルファインダー」の紹介や、デンタルチャートの具体的な記入法も詳細に説明していただいた。

特別講演2は、タイトルも素晴らしく、まさにウクライナにおける戦争や緊迫する台湾情勢やきな臭い国際情勢において、対馬丸記念館理事長のたから歯科院長高良政勝先生に、沖縄戦中に4歳にして自らの生死の狭間を漂った経験から命の尊さを訴えた、こころに残る素晴らしい感動的な、特別講演をして頂いた。

(感想)

高良先生には、冒頭においては、本歯科医学会の礎になる、研修会の基礎を築かれてきた沖縄のスタンディグループの元祖でレジェンドの伊禮迅先生のハブについての研究を含めた、臨床家で探究心の強い、歯科医師としての生き方を教えてもらった事の当時の写真を使つての紹介と、当時の高良先生の周りの若き熱い歯科医師達が、その沖縄の開業歯科医師の探究心の強いストリームを継承して今日迄研鑽してきており、また、これからの若い沖縄の優秀な歯科医師もぜひ、この流れをつないで行ってほしい先生の熱い気持ちがあひひしと伝わりました。

次に、高良先生の生い立ちにとっても大きな影響を与え、自身の生死を分けた、沖縄戦における対馬丸の話は、先にテレビにて収録された対馬丸の特集ビデオがあり、これを先に見せて頂いたことは、話の流れとしてとても整理、編集されわかりやすいものでした。沖縄戦中に、日本兵の食料確保、口減らしの為に県外への学童疎開を、余儀なくされ、大正時代の老朽船で4隻の船団ではあるものの、夜間の悪石島付近ではジグザク走行の中速度が遅く狙われ、撃沈され、ほとんど救助されていない状況で波間を漂っていたことや鹿児島にての兄との再会を、兄の直筆の手紙を御持参し先生に朗読して頂き、戦後暫く箝口令が敷かれていた事や、近年対馬丸の船体が海底で確認された事に、胸を打たれました。1997年に上映された、映画タイタニックは、爆発的にヒットしましたが、対馬丸は、タイタニックともかぶることもありますが、対馬丸は真実であり、高良先生からもより心打たれる話を聞かされました。ジェームズ・キャメロン監督もタイタニック号の悲劇の中で、愛情を通して、命の尊さを訴えたかったとおもいますが、高良先生の話から最も心打たれたエピソードは、

タイタニック号の映画では、ジャックが、心臓が凍りそうな中最愛のローズを命をかけて守りいかだに乗せ、やがて、冷たい深い海に沈んでいくシーンがありましたが、そのシーンを彷彿させる、話があり、若干4歳の子供が、救助隊も来ない、荒海の中で、誰もがもがき苦しみ、イカダの争奪戦の修羅場の中、なぜ生き延びることができたのか。それは、後からわかったことで、自分の父親が命をかけて、海に投げ出された多くの家族の中で、生かせる可能性のあった9番目の我が子の状態を見極め、我が子の政勝先生をつかみ離さずに、幼子の命を守った強い父親の愛情で、このような親の行動が瞬時に判断し実行できた事に、政勝先生のお父様のとった行動に心より敬意を称し、誰にもできない、人としての強い逞しい慈しみと愛情を感じることができました。本当に、自分も父親としてそういう状況になった時にそのような行動が取れるのか、深く考えさせられました。もうその辺りの話では、政勝先生本人も感極まって泣いておられましたが、立派に話をなされ本当に先生が、「今、伝えたいこと」の極意がわかったような気がしました。そのような稀有な命懸けの経験をした政勝先生の口から出る、「命ドゥ宝」は非常に重みのある言葉に聞こえました。私も溢れ出てくる涙をおさえるのに必死で、会場にいた関係者は、会長をはじめ皆が目を赤くして潤んでいました。上原歯科クリニックの上原淳先生も対馬丸の前後の船に乗られていたことにも驚きました。

今大会の2つの特別講演の内容は、金子先生の大規模災害の身元確認の必要性が発生する事例としては、天災や、船舶や航空機事故の大規模な事故のみならず、テロや局地戦による紛争や戦争の犠牲者も含むかもしれません。高良先生の話から、先の沖縄戦の悲劇が、2度と沖縄の地で起こらないよう、歯科医師としての研鑽を積みながら、自分と家族のために、国の政治の流れ、国際情勢、外交や台湾・中国情勢にも目を光らせ、家族のそして大切な人の命を守っていく弛まない姿勢は、1社会人として、医療人として崩さないようにしたいとおもいました。

今回の、沖縄県歯科医学会は、我々が今こそ考えないといけないヒトとして大事な事を思い知らされ、とてもこころに残る、沖縄でしかできないとてもすてきな素晴らしい学会でした。

第36回

沖縄県歯科医学会プログラム

令和4年11月3日

司会 沖縄県歯科医師会学術委員会
副委員長 新城 美由紀

開会 10:00

開会の辞 大会長 米須 敦子

口演発表 (10:05 ~ 11:45)

1 演題10分 (発表8分、質疑応答2分)

0-1) Socket preservationにConcentrated Growth Factorを使用し、インプラント治療をした症例○赤崎 栄
南部地区 赤崎 歯科**0-2) デジタルツールを活用した安心・安全・信頼される顎変形症治療を求めて**○崎原 盛貴
中部地区 ユニバーサル矯正歯科クリニック**0-3) iteroによるデンチャー口腔外スキャンの方法について**○宮本 英欧
南部地区 那覇デンタルクリニック**0-4) 当科における『抜歯中断歯の抜歯依頼』に関する臨床的検討**○吉田 誠 圓谷 智之
医療法人 八重瀬会 同仁病院 歯科口腔外科**0-5) 当科における周術期口腔機能管理
～新型コロナ禍の影響は!?～**○松堂 香織 (歯科衛生士)
宮平 生衣 (歯科衛生士)
大嶺 彩乃 (歯科衛生士)
砂川 真好 (歯科衛生士)
圓谷 智之 吉田 誠
医療法人 八重瀬会 同仁病院 歯科口腔外科**0-6) 小児歯科医としての地域活動**○加藤 真由美
南部地区 医療法人進真会 くばがわ歯科
医院**0-7) 沖縄県立病院群の診療連携体制**○立津 政晴¹⁾、上田 剛生¹⁾、新垣 敬¹⁾、
澤田 茂樹²⁾、比嘉 努³⁾、幸地 真人³⁾、
仲間 錠嗣⁴⁾
1) 沖縄県立中部病院
2) 沖縄県立北部病院
3) 沖縄県立南部医療センター・こどもセンター
4) 沖縄県立八重山病院**0-8) 徳洲会病院歯科口腔外科における中部と南部の診療連携について**○又吉 亮¹⁾ 仲宗根 敏幸²⁾ 後藤 新平¹⁾
岩坂 友里恵¹⁾ 新崎 啓介²⁾
照屋 大貴²⁾ 比嘉 優²⁾
1) 医療法人徳洲会 南部徳洲会病院
歯科口腔外科
2) 医療法人徳洲会 中部徳洲会病院
歯科口腔外科

0-9) Le-Fort I 型骨切り術、下顎枝矢状分割術、オトガイ形成術による外科的矯正治療を適応したGummy Smile、下顎劣成長を伴う骨格性上顎前突、成人女性の2例

○山内昌浩
中部地区 医療法人 山内矯正歯科クリニック

0-10) かかりつけ歯科医師にしてほしい上顎犬歯の異所萌出「もう少し様子を見ましょう」はいつまで?～上顎前歯歯根吸収を惹起しないために～

○山内昌浩
中部地区 医療法人 山内矯正歯科クリニック

特別講演 1 (12:00~12:30)

演 題『災害犠牲者の身元確認のための
歯牙鑑定について』

沖縄県歯科医師会 学術委員会 委員長 金子 智之

特別講演 2 (12:35~13:15)

演 題『今、伝えておきたいこと』

南部地区 たから歯科 院長 高良 政勝

特別講演感謝状贈呈

大会長 米須 敦子

閉 会

学術委員会 副委員長 新城 美由紀



抄 録

口演発表

0-1) Socket preservationにConcentrated Growth Factorを使用し、
インプラント治療をした症例

○赤崎 栄 赤崎歯科 南部地区会員

【目的】

2014年に再生医療新法が施行され、歯科においては主に第3種に該当するPRP、PRF(CGF)などが応用されている。今回、CGFを使用し、socket preservationをした後、インプラント治療を行い、良好な結果を得たので報告する。

【症例の概要】

患者は48歳男性。25の咬合痛、歯肉腫脹、歯肉よりの出血、排膿を主訴にて2017年4月に当院を受診。既往歴、特異体質なし。検査の結果、25は歯根破折で抜歯し、インプラント治療をすることになった。消炎後、25は抜歯し、CGF、AFG、骨補填材を使用しsocket preservationを行った。約5ヵ月後、同部位にBLインプラントを埋入。3ヶ月後に2次ope、2ヶ月後に上部構造を装着した。

【経過】

25はその後、歯槽提などの周囲組織の変化、エック

ス線写真における骨吸収もみられず、4年以上経過後の2022年10月現在も経過良好である。

【考察および結論】

今回の結果の要因として①白血球、血小板、成長因子が豊富なフィブリンマトリックスであるCGFを用い、治療の促進をしたこと、②AFG、骨補填材を用い、スペースメイキングをより確実にしたこと、③socket preservationで歯肉の切開、剥離を避けることができ、術部の血流の阻害をより最小限にしたことなどが考えられる。抜歯直後にCGFを使用し、socket preservationをした後、インプラント治療をすることは有効であると考えられる。この症例は今後も経過観察をしていく予定である。

(治療はインフォームドコンセントを得て実施した。また、発表についても患者の同意を得た。再生医療等委員会承認 計画番号CGF PC7170008)

0-2) デジタルツールを活用した安心・安全・信頼される顎変形症治療を求めて

○崎原盛貴 ユニバーサル矯正歯科クリニック 中部地区会員

【目的】

近年、顎変形症治療においてCAD/CAMなどのデジタルツールを活用した診療が行われてきている。当院では、沖縄県立病院顎顔面センターと連携し外科矯正治療に取り組んでいる。口腔内スキャナー (IOS) 等で得られたSTLデータやCTのDICOMデータを用いたデジタル矯正歯科治療を行っている。既存模型のスキャンデータ化、口腔内スキャナーを利用したデジタル光学印象、デジタルセットアップソフトを活用した診断、3Dプリンターを活用したインダイレクトボンディング法への応用、外科矯正手術シミュレーション等、患者に対して短時間で効率的な安心・安全・信頼される治療を実践する

方法を報告する。

【資料および方法】

口腔内スキャナーもしくは模型スキャナーから得られた口腔内STLデータを活用し、CADソフトにて歯牙移動セットアップモデルを製作後、Wi-Fiにて3DプリンターへSTLデータを出力し顎骨模型製作を行う。外科矯正手術計画の立案を矯正歯科医師が担当し口腔外科医に提示するために、毎回外科矯正手術に立ち合うスタイルを確保しており、術者・患者との信頼関係に努めている。

【結果および考察】

当院では、顎変形症治療の診断にCTデータを用い、シミュレーションソフトで診断から手術術式、骨の移動距離等を検討している。CTによる3次元画像は2次元では考えられないほど多くの情報が得られ、個々の歯根の形状や隣接する根の距離が明確に確認できリスク軽減にもつながり臨床に活用できることを実感している。現在では、そのCTのDICOMデータと口腔内スキャナーデータ（STLデータ）を統合し、歯列を含めた精密顎骨モデルを3Dプリンターにてレーザー造形し、正確な切開線の設定や骨削除量の可視化、移動量を術前に口腔外科医に提示

することが可能となった。またCADソフトにて製作したデジタルデータを活用し、3Dプリントされた模型を矯正歯科治療に活用することで、短時間で効率よく診断、治療計画、装置を製作することができた。

【結論】

デジタルツールを活用した歯科医療は近年急速に拡大してきている為、患者に対して短時間で効率よく安全・安心で信頼できる歯科医療を提供する為には、術者が常に新しい器械・材料の正しい知識と技術を習得する必要があると思われる。

0-3) iteroによるデンチャー口腔外スキャンの方法について

○宮本英欧 那覇デンタルクリニック 南部地区会員

咬合崩壊症例における治療ステップにおいては、プロビジョナルレストレーションによる顎間関係の決定後、精密な咬合移行が治療成功の鍵となる。特に、インプラントを用いて咬合再構成を行う場合、まず暫間的な可撤性義歯を用いて顎位を決定した後インプラント埋入を行い、固定性のクラウンブリッジに移行することが多い。従来のアナログワークフローでは、咬合床を用いて再び同じ手順を踏む必

要があったが、口腔内スキャナーを用いて口腔外スキャンを行い、コピーデンチャーを製作することにより、CAD上に顎間関係を精密に移行することができる。今回、補綴対応が不十分であると一般的に考えられているiteroにおいてもデンチャースキャンが円滑に行える方法を考案したので、症例とともに供覧させていただきたいと考える。

0-4) 当科における『抜歯中断歯の抜歯依頼』に関する臨床的検討

○吉田 誠・圓谷智之 医療法人 八重瀬会 同仁病院 歯科口腔外科

【緒言】

抜歯は歯科治療の中でも侵襲治療で、術者にストレスをかける治療であることも否めない。術式が困難化し、中断を余儀なくされる状況が起こり得ることも、ストレス原因とひとつとなる。抜歯中断歯の情報を共有することにより、スムーズな医療連携を図れることを目的として、当科における過去10年の『抜歯中断歯の抜歯依頼』ケースの調査を行ったので報告する。

【対象・方法】

2012年～2022年8月末における、前医における抜歯中断歯の抜歯依頼件数138件について、患者年齢、部位、歯牙・歯根の状態、抜歯までの期間、抜歯時間などについて検討を行った。

【結果】

平均年齢は42.7才で、前歯部よりも臼歯部に多く、智歯が最多で74件。残根が圧倒的に多く7割を占め、抜歯困難にする要件ともいえる歯根の状態は、歯根肥大>歯根弯曲>骨性癒着>歯根離開の順に多く認められた。前医抜歯中断から当科抜歯までの平均日数は48.1日で、前医における抜歯中断までの平均時間は54.4分、それらの抜歯中断歯に対する当科抜歯の平均時間は12.3分であった。

【まとめ】

抜歯中断により、術式に起因した疼痛がある症例や、止血困難に陥っている症例、さらには患者さんのご都合により、強く即日抜歯を希望されている症

例などでは、RiskやDamageよりもBenefitの方が大きいと判断された場合のみ緊急的に即日抜歯を行っているが、通常は局所麻酔の確実な奏功を含めた疼痛管理や、患者さんの心因的負担を考慮し、十分に消炎せしめた後に、あらためて抜歯を行うこととしている。

地域歯科診療支援病院としては“前医批判は一切

行わない”ことを絶対条件としたうえで、患者さんの負担軽減firstに努める必要がある。

抜歯を中断する際の判断の目安は、術者と患者さんがストレスと感じた時で、地域歯科診療支援病院では、基本的にどのような状況にも対応するのが努めである。

0-5) 当科における周術期口腔機能管理 ～新型コロナ禍の影響は!?～

○松堂香織 宮平生衣 大嶺彩乃 砂川真好 圓谷智之 吉田 誠

医療法人 八重瀬会 同仁病院 歯科口腔外科

【目的】

新型コロナ禍により受診控えや治療の延期が全国的におこり、病院の受けた影響は計りしれない。

そこで、当科における新型コロナ禍前と新型コロナ禍中における周術期口腔機能管理の症例数変化を検証した。

【期間】

2019年1月～2021年12月

【方法】

当院における全身麻酔手術件数のうち、周術期口腔機能管理の対象者数およびその実施者数、また対象者以外で口腔ケアを実施した人数を比較検討した。

【結果・考察】

1. 当科の周術期口腔機能管理実施者数では、新型コロナ禍前の2019年に対して2021年は、45%の増加率を認めた。入退院支援センターにおける歯科衛生士の役割が確立されたこと、後方支援病院の役割を全うし全身麻酔手術の増加が認められたことなどが件数の増加につながったと考えられる。

2. 周術期口腔機能管理該当者に対し、約8割の患者が実施できていた。残りの約2割については、「希望しない」、「かかりつけ歯科で実施希望」、「口腔外科手術のため処置済み」などの理由があった。

3. 当院で行われた全身麻酔手術の全件のうち、約2割～3割の患者に口腔ケアが実施されていた。残りの約7割から8割については、診療科の体制を改築すれば、今後、さらに延び幅が期待できる。

0-6) 小児歯科医としての地域活動

○加藤 真由美 医療法人 進真会 くばがわ歯科医院 南部地区会員

【目的】

2018年に公的医療保険の対象として小児の「口腔機能発達不全症」が導入されたことをうけ、口腔機能を中心としたアンケート調査を実施した。

【対象と方法】

2021年4月、5月に嘱託医をしている、3カ所の子ども園及び保育園の1歳から5歳児の保護者にアンケート調査を実施。同時に歯科健診も行なっている。

【結果】

アンケートの内訳は、1歳児36名。2歳児35名。3歳児35名。4歳児19名。5歳児22名。合計147名である。

回答欄で1歳児から5歳児の各年齢において、チェック項目が多い事例は食事時間次に口腔習癖と各年齢共通の項目である。歯並びに関しては35名中11名と2歳児が最多であった。また、1歳児から5歳児まで年齢が上がるに従って各々のチェック項目が少なくなっている。

【考察】

今回の調査で保護者は子どもの口腔機能に関心を持っている事がわかった。

成人のオーラルフレイル予防には小児期の健全な

口腔機能の獲得が必要であると示されてきている事から「口腔機能発達不全症」へアプローチしていくことも必要であると思われる。

0-7) 沖縄県立病院群の診療連携体制

○立津政晴¹⁾、上田剛生¹⁾、新垣敬¹⁾、澤田茂樹²⁾、比嘉努³⁾、幸地真人³⁾、仲間錠嗣⁴⁾

1) 沖縄県立中部病院 2) 沖縄県立北部病院 3) 沖縄県立南部医療センター・こどもセンター 4) 沖縄県立八重山病院

本県は全国でも有数の島嶼県であり問題点として医師不足の偏在、現地での専門的医療の提供困難、患者家族の移動に伴う心理および経済的負担などが挙げられる。問題解決のため“県立病院群歯科口腔外科”として活動を行い。疾患が他科領域を跨ぐ場合は、医科歯科連携による頭蓋顎顔面センターとして診療している。離島、へき地においても地域格差のない医療を実現にはモバイル医療チームを編成した。結果、患者は移動に伴う心理的、経済的負担の

軽減と高い専門性を持った地域格差のない医療を享受でき、各病院では、マンパワー不足解消、収益向上、専門的医療を提供できる強みを獲得できた。経験の浅い歯科医師は高難度の手術を指導医、専門医と執刀するため、在籍地に関わらずスキル向上が図れる等、様々なメリットが生まれた。このような診療体制の維持には、各地域歯科医院の協力が不可欠である。そこで今回、地域歯科医院との連携強化を目的に、沖縄県立病院の診療体制を報告する。

0-8) 徳洲会病院歯科口腔外科における中部と南部の診療連携について

○又吉亮¹⁾、仲宗根敏幸²⁾、後藤新平¹⁾、岩坂友里恵¹⁾、新崎啓介²⁾、照屋大貴²⁾、比嘉優²⁾

1) 医療法人徳洲会 南部徳洲会病院 歯科口腔外科 2) 医療法人徳洲会 中部徳洲会病院 歯科口腔外科

医療法人徳洲会と医療法人沖縄徳洲会は2021年10月1日に合併して医療法人徳洲会となった。69病院26診療所36介護老人保健施設を有する国内最大の民間医療法人となったことでガバナンス、コンプライアンスの強化と、全グループ間での人的交流が行えるようになり、より活発な医療を提供する体制が整ったといえる。沖縄県の徳洲会病院においても診療応援体制がとられており、中部、南部間はもちろん、離島診療応援も行われている。

歯科口腔外科は中部と南部に設置されているが、これまで人的交流が行われていたわけではない。2022年4月より中部徳洲会病院に仲宗根、新崎、照屋が、南部徳洲会病院に又吉、後藤が赴任した。各人のキャリアや人員の配置により、それぞれが単独で高度な歯科口腔外科診療を提供することが困難であると考えていた。これを解消するために両病院間での診療連携を強化してきたのでその概要を報告する。

0-9-1) Le-Fort I型骨切り術、下顎枝矢状分割術、オトガイ形成術による外科的矯正治療を適用したGummy Smile、下顎劣成長を伴う骨格性上顎前突、成人女性の2例

○山内昌浩 医療法人 山内矯正歯科クリニック 中部地区会員

【目的】

最近、当クリニックでは睡眠時無呼吸症候群改善も鑑み、外科的矯正治療を適用する下顎劣成長症例が増加した。今回、外科的矯正治療を適用したGummy Smile、下顎劣成長を伴う骨格性上顎前突、成人女性の2例を報告する。

【症例】

1) 31歳6か月、女性、主訴:Gummy Smile、オトガイ緊張、上顎前歯突出。診断:顎関節症、Gummy Smile、dual bite、下顎劣成長を伴う骨格性上顎前突。治療経過:左上・右下4、右上・左下6、左上8抜歯後、マルチブラケット装置

装着、Le-Fort I型骨切り術、下顎枝矢状分割術、オトガイ形成術を行なった。動的治療期間：2年、現在保定中。

- 2) 39歳5か月、女性、主訴：Gummy Smile、オトガイ後退、上顎前歯突出。診断：矯正治療既往、顎関節症、Gummy Smile、dual bite、下顎劣成長を伴う骨格性上顎前突。治療経過：上下左

右4抜歯後、マルチブラケット装置装着、Le-Fort I型骨切り術、下顎枝矢状分割術、オトガイ形成術を行なった。

動的治療期間：3年、現在保定中。

【まとめ】

2症例とも顔貌、咬合が改善し良好な結果が得られた。



0-10) かかりつけ歯科医師に知ってほしい上顎犬歯の異所萌出「もう少し様子を見ましょう」はいつまで？ ～上顎前歯歯根吸収を惹起しないために～

○山内昌浩 医療法人 山内矯正歯科クリニック 中部地区会員

【目的】

2015年、上顎埋伏犬歯の異所萌出により上顎中切歯歯根吸収を惹起し、中切歯抜歯後、同部に犬歯を萌出させた9歳女性症例を経験した。その後も埋伏上顎犬歯の異所萌出による上顎前歯歯根吸収が懸念される症例に遭遇する機会が多く若干の考察を加えて報告する。

【症例】

- 1) 11歳0か月、男性、上顎両側側切歯歯根に近接して近心方向萌出中の両側埋伏犬歯を伴う反対咬合症例

- 2) 15歳1か月、男性、上顎左側側切歯歯根に近接して近心方向萌出中の左側犬歯埋伏症例

【まとめ】

矯正歯科医師の立場から、自費診療による撮影になると思われるが、保護者の理解が得られるのであれば、かかりつけ歯科医師には上顎埋伏犬歯の異所萌出による上顎切歯歯根吸収防止の他に、埋伏歯、過剰歯、歯牙腫、先天欠如歯診断のために、7～9歳を目安にパノラマX線写真撮影をお願いできればと思う。



・ 県外報告 ・

第39回日本障害者歯科学会総会および学術大会

日時：令和4年11月4～6日（金・土・日）午後9時～
場所：倉敷市民会館・倉敷アイビースクエア

口腔保健医療センター診療部長 平塚 正雄

I 報告事項

1. 令和4年11月4日 認定医研修会

講演1 「ちょっと気になる子どもたちへの理解と支援」
国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
こころの診療部 統括部長 小枝達也 先生
保健師が指摘するちょっと気になる子どもたちの特徴的な行動と二次的に派生してくる問題点についてわかりやすく解説された。また治療法については早期発見による治療により症状の緩和と問題行動の軽減が期待できることが報告されていた。

講演2 患者や家族との対話

大阪大学大学院人文学研究科

講師 高橋 綾 先生

患者や家族と医療者の間に対話が成り立つためには、医療者が患者や家族の目線にまで姿勢を低くし、病の経験とはどういうものか、何に困って何を变えたいか、何を大事にしたいかという気持ちを共有し、一緒になって考えることが大切なることを述べられていた。

2. 令和4年11月5日学術大会&総会

・理事長講演 障害者歯科の歩みと展望

小笠原 正 先生

本学会創成期からの障害者歯科医療の取り組みとその変遷、そして本学会の今後の展望について講演された。

・特別講演2 尊厳の保障 ～医療・介護・福祉の連携を基盤とした地域共生社会の実現

江澤 和彦 先生

医療や介護、そして広い範囲での福祉との連携についてその基盤と地域における健常者や障害者を含めた共生社会の実現に向けた展望について講演された。

・地域医療委員会企画

「今、岐路に立つ地域の障害者歯科医療—地域で活躍する口腔保健センターの現状と課題、そして未来—」

東京歯科大学社会歯科学講座主任教授平田創一郎先生の講演では「障害者歯科医療の現状と課題」について大学で行った調査結果より考察を述べられ、障害者等が定期的に歯科健診・歯科治療を受けられるためには地域の歯科医院、行政、センターはどのように行動するべきかについて報告された。地域のセンターからは石川県口腔保健医療センター、加古川歯科保健センター、鳥取県口腔総合保健センターおよび長崎県口腔保健センターから各センターの現状と各センターの現時点でのミッションとビジョンについて報告され、現実的な課題が提示された一方で、各センターのビジョンに沿った今後のアクションが報告された。センターの現状は地域特性があり、その地域での行政との協議による施策が必要と思われた。

3. 令和4年11月6日学術大会

・特別講演3 自閉スペクトラム症の病態基盤解明と創薬を目指して

吾郷由希夫 先生

自閉スペクトラム症の病態における特徴に対して薬剤による基盤的解明に向けた現状と展望が講演された。あくまでも病態症状に対する現時点での薬理学的効果を提示する内容であった。

・地域医療委員会主催 第1回地域関連団体代表者会議開催

本学会と地域関連団体との今後の連携について協議され、本学会への要望について情報収集を行った。

出席者：地域医療委員会、オブザーバーとして平塚正雄出席

地域関連団体出席者：八若保孝（北海道）、高橋温（東北）、菊池和子（東北）、宮城 敦（関東）、大島邦子（北信越）、大橋 誠（北信越）、名和弘幸（東海）、林 勇輝（東海）、森崎市治郎（関西）、秋山茂久（関西）、森 貴幸（中国）、中川 弘（四国）、原田桂子（四国）、森田浩光（九州）。

• 県外報告 •

第4回 中国四国女性歯科医会講演会・協議会・懇親会

日時：令和4年11月13日（日）午前11時～午後2時
 場所：広島県平和記念公園内レストハウス

会長 米須 敦子

第4回中国四国女性歯科医会講演会・協議会・懇親会へ、開催県の広島県女性歯科医会会長で広島県歯科医師会副会長の林 優美先生よりお話があり「男女共同参画」と題してお話をさせて頂いた。

愛知学院大学同窓会と埼玉県歯科医師会でも同様な機会を頂いたが、対面でお会いしての会は初となった。

開催県広島県の林優美女性歯科医会会長はじめ役員の先生方にはお忙しい中、会場設営、資料のご準備等大変お世話になりました。お声がけいただき心から感謝申し上げます。



講演会、協議会そして懇親会を通して感じたことは、各県でも同じような課題に悩んでいる事だった。特に、夫婦や家族と一緒に開業されている先生方の「会員種別」の課題は大きいと感じた。

「同じように働いているのに境遇や待遇に差が出てしまう」「一緒になくてもいい」など、良案が見つからないのが現状のようだ。沖縄県でも臨機応変に各執行部で対応してきたが、根本的な解決には至っていない。女性歯科医が一気に増える時期はもうそこまで来ている、組織の安定的な継続のためにも会員になっていただくことは組織率を上げるために



も大切である。歯科医師の働き方も多岐に渡り、残念ながら現行の種別に該当せず正会員になれない先生方もいる。会費、権利や義務の問題の検討が必要だ。

「男女共同参画」については、まだ移行期だと感じる。現在の会員数に占める男女の割合でも、これからは、性差関係なく「適材適所」役員や委員会で活動してくれる人材を確保するための情報収集がいかに行えるかが、ポイントだと感じる。

各種委員会から女性会員に参加してほしいので、「声がけ」をお願いされ担当理事に繋げた。

一緒に活動したい女性の先生はいるものの、男性理事では声がけしづらいとの声もあった。

適正な評価をされている事が、接する機会が少ないこと等が原因であることも分かった。

一方男性の先生方も子育てや介護でお願いできないケースもあった。「女性の課題」でなく、今後は共通の課題として受け入れながら「共有」「協力」しあい、「共働」していく事が組織の継続に最も必要なことだと感じる。

各県で活躍されている女性歯科医の先生方のパワーを頂いた。

11月4、5、6日の倉敷市での障害者歯科学会、11月13日の広島市での第4回中四国女性歯科医会そして12月3日の愛媛県での二地区協議会と中四国の先生方との新たな出会いに感謝している。





• 県外報告 •

令和4年度都道府県歯科医師会広報担当者理事連絡協議会

日時：令和4年11月30日（水）午後1時～午後5時
場所：日本歯科医師会館

調査広報担当理事 梅村 誠

1. 開 会 常務理事 小山 茂幸
2. 挨拶 会 長 堀 憲郎
副会長 柳川 忠廣

3. 出席者紹介
4. 座長選出
5. 報告・協議

- (1)日歯の広報活動について
(2)その他

〈質疑応答・意見交換〉

休憩・会場移動（1階大会議室へ）

6. 研 修
「行動変容のためのヘルスコミュニケーション」
東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学分野 奥原 剛

7. 閉 会 常務理事 小山 茂幸

〈報 告〉

日歯報告では西日本新聞の「歯科医師と看護師最大16倍」の賃金格差について説明があった。次に

WEBマガジンが更新されているのでQRコードを医院に掲載してほしいと報告があった。メンバーズルームより、「はじめよう 予防歯科」「親子でやろう！0才からの予防歯科」を100冊配布しているので、活用してほしい。ロゴ、シンボルマークなどVIを策定しスローガンは「人生をもっと楽しくもっと豊かに」とした。日歯HPのリニューアルについて説明があった。「よ坊さん」LINEスタンプをリリースし、活用を呼びかけた。質疑応答ではこの「よ坊さん」の中の文章を地方の方言を使えるかの質問があり、検討するとの回答があった。

研修では、14時から15時30分まで、奥原 剛氏の講演があり、「人を動かすコミュニケーションの基礎3つ」「人を動かすヘルスコミュニケーションの10の原則」という演題でした。15時40分から17時まで6名のグループを作り「歯科保健衛生の啓発チラシ作成」を行い、各グループの発表を行った。





・ 県外報告 ・

「九州」「中国・四国」地区歯科医師会役員連絡協議会

日時：令和4年12月3日（土）午後2時30分～午後5時30分

場所：ANAクラウンプラザホテル松山4階ダイヤモンドボールルーム

専務理事 **渡慶次 彰**

司会 愛媛県歯科医師会専務理事 西岡 信治

1. 開会の辞

愛媛県歯科医師会副会長 菊池 貞介

2. 開催県あいさつ

愛媛県歯科医師会会長 橋本 成人

3. 来賓あいさつ

日本歯科医師会会長 堀 憲郎

日本歯科医師連盟会長 高橋 英登

4. 来賓紹介

5. 議長選出

6. 令和5年度開催県について

7. 副議長選出

8. 議長・副議長挨拶

9. 日本歯科医師会会務報告

日本歯科医師会専務理事 瀬古口精良

10. 日本歯科医師連盟会務報告

日本歯科医師連盟理事長 浦田 健二

11. 協 議

12. 閉会の辞

愛媛県歯科医師会副会長 松木 健二

協議題

(1) 特殊健診の申請手続きと、同健診での職場巡視について（沖縄県）

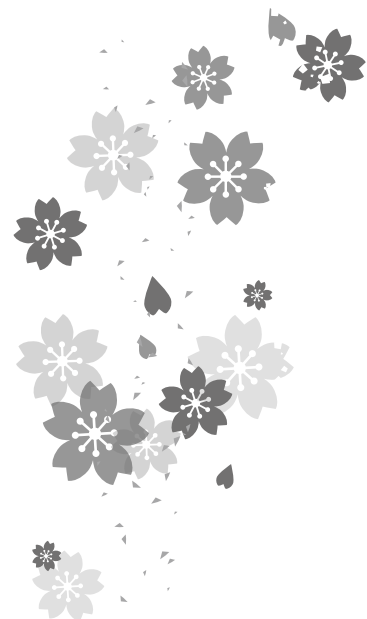
県歯科医師会事務局を窓口に行っている県が多かった。申請手続きはマニュアルを作成し対応、これからふえるであろう依頼の事業所に対して産業歯科医の数と質が重要、労働衛生コンサルタントの配置、職場巡視まではまだ、できていない県も多かった。広島県、高知県、愛媛県からは資料提供もあり、県歯科医師会としての取組に参考にしていきたい。

(2) オンライン資格確認について（鳥取県）

沖縄県の状況について、日歯からの情報を文書、メールにて会員通知し県歯では説明会を2回開催。先月末に会員へアンケート調査を実施。56%の回答。

その内、カードリーダー申し込み済みは92%でその中でカードリーダーを使用が44%であった。カードリーダーの到着待ち、NTTに申込連絡・工事待ちベンダー（レセコン業者）の導入作業待ち、ベンダーが決まっていない等。

日歯への要望として、経過措置を設けること、補助金期間の問題、ランニングコストの問題、ネット環境の問題等。





・ 県内報告 ・

健康おきなわ21(第二次)等最終評価・次期計画策定に係る総括委員会

日時：令和4年10月7日（金）午後7時～午後9時
場所：沖縄県医師会館 第2会議室

副会長 屋 嘉 智 彦

1. 開 会 2. 議 事

(1) 「目標値に対する実績値の評価」の確認（健康おきなわ21）

生活習慣の改善

- ・ 3歳児むし歯有病者率の減少：最終評価A（目標値20%）
- ・ 仕上げ磨きを毎日している幼児の割合の増加：最終評価A（目標値80%）
- ・ 食事やおやつ時間が決まっている幼児の割合の増加：最終評価C（目標値90%）
- ・ 12歳児における1人平均むし歯数の減少：最終評価B*（目標値1本未満）
- ・ 歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少：40～60代で最終評価E（評価困難）
- ・ 歯間部清掃器具を毎日使用する人の割合の増加：最終評価35～44歳、45～54歳ともB*（目標値50%）総合評価B*
- ・ 歯科医院で定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける者の割合の増加：最終評価E（評価困難）
- ・ 60歳で24歯以上の歯を有する者の割合の増加：最終評価E（評価困難）
- ・ 80歳で20歯以上の歯を有する者の割合の増加：最終評価E（評価困難）
- ・ 学校での給食後の歯みがき実施率の増加：最終評価小学校D、中学校C（目標値100%）
- ・ 1歳6か月児健康診査でフッ化物塗布を実施する市町村の増加：最終評価B*（目標値95%）
- ・ フッ化物歯面塗布を受けたことがある幼児の割合（3歳児）の増加：最終評価B*（目標値90%）
- ・ フッ化物洗口を実施している施設数の増加：最終評価幼稚園等A、小中学校D（目標：増加）総合評価C

(2) 「関連する取組状況を踏まえた分析と今後の課題

の整理」の検討

1) 次期計画に向けた提言（充実・強化すべき取組等）

「幼児期のむし歯予防対策」については保護者への歯科保健指導の標準化などの環境整備等を行うことで、乳歯のむし歯罹患状況は大きく改善し、一定の効果を上げることができた。今後もむし歯予防にかかる啓発を継続し、更なる改善を図っていく必要がある。

「学齢期のむし歯予防対策」については、強化を図っているところであるが、家庭での取組促進だけでなく、学校での取組への支援を今後も教育庁と連携しながらすすめていく必要がある。

幼児期及び学齢期のむし歯罹患状況は、家庭における意識や取組の違い、さらには経済的要因による影響が考えられている。このような格差縮小を図るためには、学校等での集団でのフッ化物洗口実施拡大をあわせて推進していく必要がある。

「成人期の歯周病予防」については主に啓発に取り組んできており、今後も継続していく必要がある。また、歯周病が悪化する前の若い働き盛り世代を対象とした事業所における歯・口の健康づくりの取組を推進する必要がある。そのためには実態を把握した上で、課題や対策の検討を具体的に行い、好事例等を提示し啓発して行く必要がある。

「歯の喪失防止」については、自分の歯を有する高齢者が増加していると考えられるが、根面う蝕や歯周病の増加等、残存歯の増加に伴う高齢者の新たな課題への対策が必要である。また、残存歯数だけでなく、口腔機能の維持についても目を向ける必要がある。

2) 目標項目や目標値設定の妥当性に関する考察

『フッ化物洗口を実施している施設数の増加』

のように、実数ベースの増減目標を設定する場合は、そもそも対象となる施設数自体が統廃合等により増減することによって、単純に数値を比較する前提条件が損なわれることになる。したがって、そのような変動が予想されるものについては、実数の増減ではなく、『フッ化物洗口を実施している施設の割合』とするなど、変更を検討する必要がある。

成人期の口腔内状況については、現在、5年に一度実施する県民健康・栄養調査で実態を把握し指標を設定しているが、新型コロナの影響を受け令和3年度は口腔内状況調査が中止となったため、評価困難となった項目がある。継続的に実態把握できるよう歯科医院の協力を得て実施する調査等、新たな調査方法の検討が必要である。

口腔機能の維持向上に関連する指標が現計画では設定されていないため新たな設定が必要である。

3. その他（共有事項、確認事項等）

11/8 「いい歯の日」イベント（松永）

11/13 フッ化物洗口研修会（屋嘉）

11/17 県民公開講座（屋嘉）

の告知を行った。

4. 閉 会

〈報 告〉

出席者：屋嘉智彦（沖縄県歯科医師会）、松永真由美（沖縄県歯科衛生士会）、井手健太郎（琉球大学大学院医学研究科顎顔面口腔機能再建学講座）、奥間千賀子（沖縄県PTA連合会）、松田佳奈子（教育庁保健体育課）

欠 席：嘉手納一彦（那覇市保健所・那覇市口腔保健支援センター）

本委員会は、H26年3月に策定した「健康おきなわ21（第2次）」及びR2年3月に策定した「沖縄県歯科口腔保健推進計画」の取り組みの成果を最終評価し、次期計画の策定に向けた検討を行うために設置された。今年度第2回として「目標値に対する実績値の評価」について協議した。

評価は、A：目標値に達した、B：改善傾向にある、C：変わらない、D：悪化している、E：評価困難、の5つのカテゴリーで行われ、策定時ベースライン（平成23年）、中間値（平成28年）で比較される。評価Eは多くの場合、出典元がベースライン・中間値と最終値では異なるため、比較が困難になったことによる。アンケートの質問内容（選択肢）が変更されたり、コロナ禍に入り口腔内診査が行えず、アンケート調査の回答のみに基づかざるを得なくなったために比較が行えなかったという事情がある。今回の協議で、事務局より提案された評価結果について、いくつかの項目で評価Eへの変更となった。

協議の中で委員から出た意見として、

・フッ化物洗口施設数が減少した理由（奥間）、実施拡大が進まない本県の事情は？（井手）

→教育現場ではフッ化物を毒物とする考えがある／教育現場の仕事量が増加する（屋嘉）

・学校での給食後の歯みがきについて、「地区による時間設定の差がある」とはどういうことか？（井手）

→地区による差が生じている源については、現在数字をとっていないのでわからない（松田）

→地区によって実施率に差があることは理解できるが、「歯みがき時間の設定については、地区による差がある」という表現は改めるべき（井出）事務局同意

・学校での給食後の歯みがきについては、小学校で7校、中学校で3校が実施している。小学校では実施予定が1校、で7校はコロナ禍で中止となっている。実施している7校とコロナ禍で中止した7校を合算すると14校となり、これをコロナ禍の影響を除いた数字と見做せば、ベースラインと比較して横ばいというよりも増えているのでは、とも考えられる。中学校では3校がコロナ禍で中止しているとのこと。「新型コロナ感染症をはじめとする外在的制約とその影響」のところで、評価が上がらないということで申し訳ないという気持

ちがあるが、このように記載を頂いているので、
しっかりと取り組みを進めていきたいと思う（松田）

- ・コロナ禍によって歯肉炎の調査が中断されており
評価が厳しい状況です。現在、調査を継続するか
どうかという話も持ち上がっているが、この内容
は重要です。項目として挙げていった方が良いの
でしょうか（松田）／コロナ禍によって予定して
いた時期に健康診断の実施ができなくなった。年
度内には実施することになっているが、集計でき
ていない数値もある。学校では調査しているが、
取りまとめができていない（松田）
- 歯肉炎に関しては口呼吸になってしまい、むし菌
を引き起こしやすいと言われているので、継続し
ていくべき（屋嘉）
- コロナ禍の収束に合わせて改善していければと思
う。調査は継続していきたい（松田）





・ 県内報告 ・

令和4年度歯科医療従事者技術向上支援研修会

日時：令和4年10月30日（日）午前10時～午後4時30分

場所：沖縄県口腔保健医療センター大研修室

学術委員会 委員 岡村 健司

研修テーマ

『歯周病を治せる歯科衛生士を目指そう』

《第一部》10：00～13：00

司会 沖縄県歯科医師会 学術委員会

委員 岡村 健司

開 会 司 会

挨拶 沖縄県歯科医師会

学術理事 眞喜志早江子

講師紹介 司 会

講演 講師 DH HIYOKOCLUB

代表 堤内 久枝 先生

質疑応答 司 会

第一部閉会 司 会

《第二部》13：30～16：30

司会 沖縄県歯科医師会

学術委員会 委員長 金子 智之

開 会 司 会

質疑応答 司 会

感謝状贈呈

沖縄県歯科医師会

学術理事 眞喜志早江子

第二部閉会 司 会

『歯周病を治せる歯科衛生士を目指そう』をテーマに講師として、DH HIYOKOCLUB代表 堤内久枝先生をお招きし、ご講演頂きました。

今回は対面での実習形式でのセミナーということもあり、予想を超えるたくさんの方にご応募いただきましたが、感染対策の兼ね合いから、各医院一人までの制限を設け30名の方に受講していただく形となりました。

午前、午後の非常に長丁場のセミナーでしたが、みなさん関心の高い内容であったこともあり、非常に熱心に集中して受講されている姿が終日うかがえました。歯科衛生士としての診療へのかかわり方や心構えをはじめ、実際の手技に至るまで細やかに説明頂き、非常に有意義な講演であったと感じました。

今回、残念ながら受講できなかった歯科衛生士さんも多数いましたが、こういった実習形式のセミナーは非常に関心が高く、沖縄の歯科医療レベルの向上に大いに役立つと思われますので、来年、再来年と同様のセミナーを行っていただければと思います。実習に使用させていただいたマネキンを、快く貸し出し頂いた沖縄歯科衛生士学校の関係者の方にも併せて御礼申し上げます。



・ 県内報告 ・

令和4年度第2回沖縄県認知症疾患連携協議会

日時：令和4年12月17日（土）午後4時～午後5時30分
場所：WEB開催

会 長 米 須 敦 子

令和4年度第2回沖縄県認知症疾患連携協議会が以下の次第に沿ってWEBにて開催された。

1. 開 会

2. 報 告

(1) 認知症および軽度認知障害の方の日常生活支援に関するアンケートについて

(2) 疾患センター訪問及び意見交換について

3. 議 題

(1) 今年度指定された沖縄県認知症疾患医療センターについて

①医療法人天仁会天久台病院 ②ぬちぐすい診療所

(2) 医療と介護の連携のあり方について

4. その 他

沖縄県認知症疾患医療連携協議会委員の任期について

5. 閉 会

認知症および軽度認知障害患者の家族介護者のソーシャルサポート充足状況についての予備的調査—家族介護者のサポート充足状況と生活満足度の関連に関するアンケートとが行われ結果を踏まえ以下の報告が行われた。

- ・ 診断後の家族介護者のサポートニーズ充足状況は、サポート種（情動的サポート・心理的サポート）とサポート源ごとに異なり、サポート種にかかわらずサポートニーズ充足状況分類において非関与群（サポート受領なし・サポートニーズなし）とされる群を一定数認める→明確にサポートニーズがあるわけでない家族介護者に個々の支援者の立場から働きかけ、いかに関係を築き、ニーズを引き出していくかが今後の課題
- ・ 情動的サポートニーズ充足状況において、サポート源としてケアマネージャーと介護スタッフからのサポートニーズ充足状況と生活満足度との関連

が認められた

- ・ 心理的サポートニーズ充足状況において、サポート源としてケアマネージャーと介護スタッフ、医療スタッフからのサポートニーズ充足状況と生活満足度との関連が認められた→「生活支援」を重視した介護サービスを提供する支援者からのサポートニーズ充足状況がサポート種にかかわらず生活満足度と関連しており、家族介護者の生活の質の維持
- ・ 充実を図るためには、医療サービスの提供のみならず、日々の生活を支える支援者からのサポートの両輪が必要不可欠である

医療と介護の連携のあり方について

1. 診療について

- 外来では日常生活の状況を把握することが困難である。医療側は受け身の状態で、介護側からの情報提供がない限り日常の問題を認知するまでに時間がかかる（認知症診療医）
- 介護側が感じる連携の妨げとなる要因について聴取すると、問題点が整理しやすいのではないかと（認知症診療医）
- 周辺症状の状態がうまく伝わらないことがある（施設・包括）

2. 認知症専門医とサポート医の連携について

- 認知症サポート医との連携がどの程度できているか（疾患センター）
- 本人や家族がかかりつけ医にうまく相談できない（施設・包括）
- かかりつけ医で十分な相談がされず、多剤処方され薬の調整が難しくなってから専門医受診となる（包括）
- 主治医意見書に認知症と記載されているが鑑別診断がされていないため、どのタイプの認知症なの

か不明なケースが多い（包括）

- かかりつけ医、サポート医、専門医それぞれがよりスムーズに連携できる仕組みがあればと思う（包括）

3. 医療やサービスの導入について

- ご本人が拒否するあるいはご家族の協力を得にくい場合、医療やサービスにつなげにくいことがある（施設・包括）
- 認知症の初期段階では、家族はなかなか相談や受診には繋がらない（包括）
- 往診できるシステムがあれば良いと思う（包括）
- 心理検査等のアセスメントの結果を、他施設の介護や支援者と共有することの難しさがある（公認心理師）
- 家族以外の協力者に服薬の見守りを気軽にお願いできると心強い（薬剤師）

4. 研修等について

- 訪問介護にて医療的ケアを実施するには、資格を持っているヘルパーが対応しなければならない。基本研修は受講できても、その次に必要な実地研修へなかなか進められない（介護福祉士会）
- 「沖縄県歯科医師認知症対応力向上研修」と、一般で行っている「認知症サポーター養成講座」に関する連携や、共通資格などの連携が必要と感じる（歯科医師会）



• 県内報告 •

令和4年度 歯科衛生士復職支援セミナー

日時：令和4年12月18日（日）午前10時～午後3時
 場所：沖縄県口腔保健医療センター大研修室

学術委員会副委員長 新城 美由紀

昨今の歯科衛生士不足が少しでも解消されることを目的として、休職中・離職中の歯科衛生士を対象にした復職支援セミナーが下記日程にて開催されました。（実際には申込者が少なかつたため、在職中の歯科衛生士でも受講可能としました）

- 10：00～12：00 株式会社ジーシー
 口腔機能検査セミナー
- 13：00～15：00 株式会社松風
 PMTC 超音波スケーラー
 パウダーメンテナンス
 口腔内写真の撮影法 電動歯ブラシ

午前のGC社セミナーでは、超高齢社会となった日本の現状、近年よく耳にするフレイルについての説明などがあり、歯科領域で関心が高まっているオーラルフレイルについて講義がありました。講義後に、「口腔機能低下症」の7つの検査項目について説明があり、実際に自分の口腔内で検査を行うという体験をしました。これらの検査により、具体的に口腔機能の状態がわかり、定期的に記録して、管理していきます。管理とは①現在の状態を知る ②これ以上悪くならないようにする ③改善できることがあればアドバイスや治療を行う ということです。

午後は、松風社お勧めの商品や最新の商品を紹介していただきました。

- PMTC…PMTCで使用する様々な歯面研磨ペー
 スト、口腔ケアジェル等の紹介。
- 歯科用多目的超音波治療器…超音波スケーラーと
 パウダーデバイスが1台になっている。実際に使
 用して、従来のパウダーメンテナンスとは異なり
 痛みがないことや粉詰まりのリスクが軽減され
 ていることに驚いていました。
- 歯科用カメラ…口腔内写真撮影に特化しているた

め撮影や規格設定が非常に簡便。実際に口腔内写
 真撮影をしていました。

- 電動歯ブラシ…適切なブラッシング圧を知らせる
 機能などがついている新製品を実際に使用して使
 い心地を体験していました。

業者の方から丁寧に説明していただき、実際に体
 験することができ、参加者からの質問も活発でし
 た。

受講者が4名で、非常に少なかったことが残念で
 した。いろいろな機器を見て、体験もできますの
 で、新商品や自院で使用している以外の他社商品
 を知る良い機会だったと思います。

歯科衛生士不足は非常に深刻です。せっきくの資
 格を活かすために、休職中・離職中の歯科衛生士
 の皆さんには復職についてぜひ声掛けしていただき、
 また必要な時には復職支援を行っていきたくと思
 います。

受章おめでとうございます

令和4年度 旭日双光章 久場 良明

叙勲受章の御報告

久場 良明

令和4年秋の叙勲に際し、旭日双光章を拝受いたしました事のご報告をさせていただきます。

私は開業して40年間、歯科医院の経営を行うと共に歯科医師会の一員として、会員の先生方同様、乳幼児歯科検診や学校歯科医、学術委員会委員、歯科衛生士学校の講師等の活動を行ってきました。又、中部地区歯科医師会に於いては学術担当理事、専務理事、会長と務めさせて頂きました。自身の医院での診療以外での活動は他の先生方との交流や協力が得られた事で大変有意義なものであったと思っています。そして今回の受章はその様な事への評価と思っており会員の先生方の御協力ご指導なくしては無かったと思っております。

会員の先生方、私の乱雑な履歴資料を取りまとめていただきました県歯事務局長の小禄さんに感謝申し上げます。

ありがとうございます。



受章おめでとうございます

令和4年度 瑞宝双光章
千葉 章規

叙勲受章の御報告

千葉 章規

この度、県歯科医師会の推薦を頂き、瑞宝章を拝受いたしました。学校保健功労との事です。思えば校医歴は昭和54年の那覇市若狭小学校から始まり、現在の北谷第二小学校と44年間になります。70過ぎの老体ですが、この受章を励みに、もう暫く歯科医を務めていきたいと思っております。



受章おめでとうございます

令和4年度 厚生労働大臣表彰

高嶺 明彦

厚生労働大臣表彰の御報告

高 嶺 明 彦

私事で誠に恐縮ですが、この度、厚生労働大臣表彰を受賞いたしました。表彰式は、令和4年10月29日に、群馬県高崎市高崎芸術劇場にて開催されました「第43回全国歯科保健大会」の席上にて執り行われました。

これもひとえに、歯科医師会役職員、会員諸先生方の温かいご指導、ご支援の賜物であると、心から感謝申し上げます。

今後とも、表彰の名に恥じることがないように、微力ながら地域歯科保健・医療の発展のために精進して参りたいと存じます。

僭越ながら、感謝の気持ちを込めまして、ご報告を申し上げます。本当に、ありがとうございました。



受章おめでとうございます

令和4年度 文部科学大臣表彰

護得久 朝 保

文部科学大臣表彰の御報告

護得久 朝 保

この度、学校保健の普及と向上に尽力した功績とのことで、文部科学大臣表彰を受賞いたしました。

ご推薦いただきました米須会長はじめ県歯科医師会執行部の先生方、また纏めてくださいました小禄局長はじめ事務局の方々へ深く感謝申し上げます。

歯科医師会に入会し、歯科校医として学校保健活動に関わり、また南部地区歯科医師会役員として他組織、各自治体との地域の学校歯科保健活動に対する評価と考え、会員皆様の支援と協力のおかげと感謝いたしております。

ここ数年、コロナ禍のため、実務としては健診と外傷児童の対応に減少し、電話、FAXでの相談が多くなっておりますが、今後も子供たちの健康のため、微力ながら学校保健活動に関わって行きたいと思っております。

誠にありがとうございました。



第74回 九地連

テニス大会に参加して

上地歯科医院・上地 智博

去った10月23日に三年ぶりの九地連テニス大会が鹿児島県で開催された。

当初はテニス大会は開催しないとの通達があり、諦めていたところ各県の多くの会員から開催希望要請があったとのことで、急遽開催となった。我々テニス部も大急ぎで参加者を集めて5名の先生（長堂芳子、能登原敬、福里剛、新垣善章、上地智博）で大会に臨んだ。

今大会は九州8県から18チーム（1チーム6名・ダブルス3試合）が参加し、予選は3チームずつのリーグ戦を行い、勝者が上位トーナメント、敗者が下位トーナメントに分かれて本戦が行われた。

我々のチームは予選が1勝1敗で3チームが同率で並んだが、セット率で惜しくも3位となり、下位トーナメントでの本戦となった。

本戦では初戦を2-0で勝ち、準決勝では惜しくも1-2で敗れて決勝進出は叶わなかった。

試合後は鹿児島市内の磯庭園近くで両棒餅(ちゃんぼ餅)を食べて雄大な桜島をあとにして空港に向かったのだが、着いた空港で大珍事が起こったのである。

ちなみに我々、歯科医師会のテニス部は毎週金曜日午後7時～10時まで、南風原町のちむぐくる館屋上テニスコートで6～8名で練習している。メンバーはとても個性強い集団なので絶えず笑いに事欠かないサークルである。

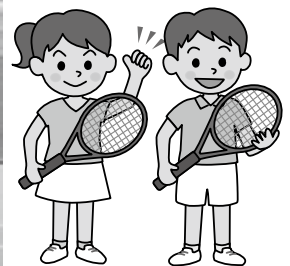
上記の大珍事とは、毎年問題を起こす問題児（老

人）A.Z先生のことである。前回大会では試合後、空港へ向かう途中で彼がコンビニでビールと酒のつまみを買ってきたが、そのつまみが何とドッグフードでそれを知らずに全員食べてしまった珍事も記憶に新しい。そして今年もまた期待通り？にやってくれたのである。

恒例になった空港レストランでの打ち上げでは試合の反省や今後の目標など話は盛り上がり、ついついビールの量も増えてしまった。その後、出発時刻になったので搭乗のチェックインをして各自搭乗口近くの椅子で待っていた。そして、搭乗が始まりすべての乗客が搭乗終えて、出発かと思っていたら機内アナウンスで「A.Zさんはいらっしゃいますか？」とあり、すぐに我々は搭乗口の椅子で彼が寝過ごしているのだと気が付いた。すぐさま係員が迎えに行き、無事出発に間に合ったのである。しかし当の本人は酔っぱらった赤顔で眠たそうに何事もないかのように入ってきた。そして彼の最初の一言が「みんな冷たい……」であった。確かに言われてみれば、同列に座っていたN.Y先生、三列目に座っていたF.T先生、自分も声掛けをしなかったことは後の祭りであった。

ということで、三年ぶりのテニス大会もA.Z先生の珍事でとても楽しい遠征であった。

また、来年の開催県である宮崎県でどのようなドラマがおこるのかを期待して、更には歯科医師会テニス部の今後の充実を願って報告文とします。



令和4年度

赤い羽根共同募金のご寄付について(お礼)

平素より、本会会務運営に関しまして御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、時節柄出費多端の折にもかかわらず、この度赤い羽根共同募金へのご寄付にご協力頂きまして衷心より感謝申し上げます。

お寄せいただいた浄財（**1,008,000円**）は、本会館において12月16日に沖縄県共同募金会へ贈呈させて頂きました。



令和4年度 登院式

11月24日（木）、まだまだ新型コロナウイルス感染症の影響が色濃く残る中、参加者を限定し感染対策を徹底したうえで、本校にて登院式が執り行われた。歯科衛生士を目指す学生たちが、初めての臨床実習に臨む前に、歯科衛生士という職業を実際の現場で体感し、よりプロとしての意識を学ぶ為、また、その責任の重さを自覚するための大事なセレモニーとなった。

会場の明かりを落とし、ナイチンゲール像に灯された灯を、名前を呼ばれた学生が順に自身の持つ燭台に受け取り、全員が終わると、誓詞を朗読する。厳かな雰囲気では進み、緊張感が漂う中、学生たちもリハーサルとは違い真摯に向き合っているようだった。

沖縄歯科衛生士学校教務部長 中地 昭雄

学生たちの多くはコミュニケーションに不安を抱えながら、緊張して臨床実習に臨むことになる。実際に臨床の現場に入ると、今まで学修したことを現場で体験することによって、時には戸惑いや不安を感じることもあると思う。しかし、担当教員や家族、実習現場のサポートを受け、学生たちが新しい学びや楽しみ、そして目標を得られることを切に願う。

国家資格を得て社会に出ていくが、一医療人として地域に貢献できるように、そして、立派に成長した彼らが想像できるような良い式だった。



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆新職員紹介☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

許 田 重 尊

令和4年8月16日より総務に携わらせていただいています。

庶務と社会保険を担当させていただいておりますが、今までと違った必要な知識が多く、難しい事だらけです。

しかし、周りの方々に助けられ、業務に必要なことを学び、日々成長を感じながら充実した毎日をご過ごしています。

今後はこの3カ月で学んだことを活かし、業務の正確性の向上、そして効率化を図れるようにしていこうと思っています。

これからも精一杯頑張らせていただきます。ご指導の程よろしくお願い致します





ゴルフに魅せられて



(医) 健生会 上原歯科クリニック 上原 淳 (浦添)

さかのぼること、かれこれ半世紀前、東京都小金井市で結婚間もない頃、妻が勤めていた会社の上司から貰ったという、7番アイアンがゴルフを始めたきっかけになった。

彼女からグリップ、スウィングの基本の手ほどきを受けて、当時近くに新しく出来たばかりのゴルフ練習場で早速試してみた。勿論ボールに当たるわけではなく空振りばかりのデビュー、波乱のゴルフ人生が始まった。

その頃、昭和45年(1970年)あたりから、尾崎将司、青木功、中島常幸、杉原輝雄更に女子では樋口久子等が華々しく活躍した時代で、高度経済成長の波に乗ってゴルフの大衆化が進んでいた。その後次々と名選手が生まれ現在に至っている。他方ではボウリングブームもあって、テレビではゴルフとボウリングに関する放送が競い合い、賑やかな時代だった。

母校の口腔外科(麻酔)の医局に入って間もない頃で、大学の業務の合間を縫って、特に生活のため夜間診療のバイトをしながらの生活だった。

時間的、経済的に余裕のない日々であったが、ゴルフ練習の虜になって、休日には足繁く、ゴルフ練習場に通い、妻からよく小言を言われた。

その当時、ゴルフコースの予約が困難で、プレー・フィーは高く、更にコースは遠方で、大衆化と言われながらも、我々庶民には、やはり高嶺の花だった。

コースに行く時はゴルフバッグを担ぎ電車を乗り継ぎながら往復に一日がかりで、ゴルフバッグを担いで乗り込んでくる社用族を電車の中で日常的に目にした時代だった。

そのような事で、コースに出るのは、せいぜい医局で行われたコンペ、東京近隣の大学の同期の友人ら、とのコンペで年2、3回のペースであった。

コースに行く機会は少なかったが、それでもマイペースで、黙々と一人でも遊べるので、気分転換と健康の為とばかりに、バッグを肩に、自転車に乗って練習場に行くのが楽しみの一つだった。

学校の体育の時間以外スポーツらしいスポーツをしたことがなかった小生は、ゴルフは練習場で一人

でも、何時でも遊べるのが魅力的で、コースに出る機会が少なかったが、それで不満はなかった。基本的には、それは当初から今に至るまで変わらない。

今日まで、きちんとしたレッスンを受けたこともなく、ゴルフ関連の雑誌、本、テレビ番組、友人間の話等の中からゴルフの技術的な事を摘み喰いし、自分流に貼り合わせて、堂々巡りを繰り返しながら、我流のゴルフスタイルでクラブを振り回している。

目指すゴルフスウィングのイメージと自身のスウィングには大きなギャップがあるのは避けられず、その狭間で悪戦苦闘しながらも、飽きることがない。

約5年前、75歳を過ぎて、フルタイムの診療をリタイアした後は小生の日々の生活の中で時間的にも、精神的にもどっぷりとゴルフが占有するようになって来た。

先だって、行きつけの豊見城市のT. ゴルフ練習場のロビーに、いかにも時代物らしい掲示物が目に留まった。そちらの関係者にその由来を尋ねてみると、先代がさる古物商で手に入れたらしいが詳細は不明だと。一見して、時代物で、海外由来らしい事が推定で来る。

まさにその詩の内容が小生の置かれた状況、心情そのままだと、いたく共感した。

☞ I don't play bridge. ☞
I don't play tennis.
I'm not a gourmet cook,
and I don't do gardening.
I Can't dance or sing
too well, and I don't jog.
I have no spare time.
☞ I'm a golfer. ☞

I don't play bridge.
 I don't play tennis.
 I am not a gourmet cook,
 and I don't do gardening.
 I Can't dance or sing
 too well, and I don't jog.
 I have no spare time.
 I 'm a golfer.
 (author unknown)

俺はブリッジ（トランプ）をしない。
 俺はテニスもしない。
 俺は料理もだめだ、
 また 庭いじりなんかやらないヨ。
 俺は歌は苦手で、ダンスなんてもってのほか、
 ジョギングなんてまっぴらだ。
 俺に残された時間はドンドンと過ぎていく。
 そうだ、俺にはゴルフがあったんだ
 （詠み人知らず）

この原文のリズムがいかに軽快で、流れに乗っていて、口ずさんでも、なかなか調子がいい詩だ。それを私なりに、原文を今の心情・雰囲気を感じながら、上記のように訳してみた。

とかく、一旦ゴルフの面白さを体感すると、技術的な上手・下手を越えて、その虜になると言われているが小生自身、身をもって実感している。

では、何故、それほどにゴルフの虜になったか、思いつくままに述べてみたい。

ゴルフには次の三つの楽しみ方があると言われ、それらが絡み合って相乗的に、より深く広く、その状況に応じた多様な楽しみ方が考えられる。

それは

- *プレイするゴルフ。Fun of playing golf
- *見るゴルフ。Fun of watching golf game
- *読むゴルフ。

Fun of reading the book related to golf
 などがある。

まずは、「プレイするゴルフ」。Fun of playing golf.

一般的にスポーツと言えば、野球、バスケットボール、バレーボール、サッカー、ラグビー等があるが、それらは、主に若い世代が対象で、それ相応の身体能力、一定数以上の人数が必要になる。

それに対して、ゴルフは5, 6歳の幼児から90歳代までの超高齢者まで、性別を問わず、端的には、歩行さえが可能であれば老若男女、誰でも可能なス

ポーツである。その上、プレイする場合は各自のレベルに応じてハンディキャップを付け、皆で対等に楽しめる。

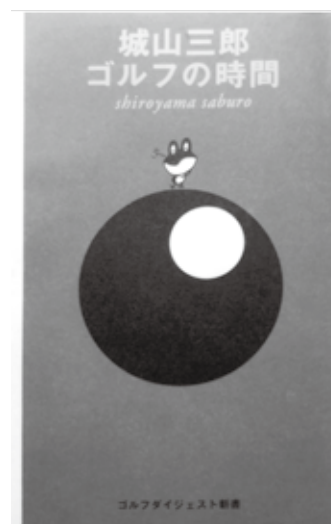
ボウリングも、基本的にはこの範疇に入ると思われるが、ゴルフは広々とした空の下、フレッシュな空気に満ちた緑豊かな自然環境のコースの中でやるスポーツである事が、やはりゴルフにおいて他にはない。日頃の憂さを忘れて、その様な環境でプレイに没頭出来るのは、何よりの醍醐味である。



標準的な、いわゆるロングコースでの運動量は、カートを利用して回る場合でも、経験上、18ホールで12,000から15,000歩超の運動量で、おまけにアップダウンがあるので、それ相当の運動量になる。勿論、ショートコースになるとその運動量はその長さに応じて小さくなる。また、カートを生かせば体力に応じてコントロールできる。

小説「落日燃ゆ」、「無所属の時間で生きる」の著者、城山 三郎は重度の不眠症により、作家生活をも危機に陥る程、体調不良に悩まされていた所、それを見かねた主治医の勧めがあって、38歳になって気乗りしないままゴルフを始めた。結果的にその効果が出て、不眠症は緩解して、それとともに体調も回復した。

本人曰く、「ゴルフのお陰で命拾いした」と自身の本の中で繰り返し述懐している。



何処までも広がる青い空、何処までも続く緑の芝生、美味しい空気、この非日常的な雰囲気の中でプレイは汗を流しながら、えも言われぬ解放感を覚え、心が癒される。

このような心身ともに絶好の環境でプレイする同伴者とも、自然に和やかな雰囲気になり、立場を越えてコミュニケーションがスムーズになって一日をかけて楽しめる。

沖縄県歯科医師会DGA月例会、第5日曜日の南部地区歯科医師会コンペに参加すると、日頃コンタクトのない会員と世代、出身大学を超えて、心おきなくプレイすることができる。また情報交換の場でもあり、会話の中に思わぬ発見等があって、大いに楽しんでいる。

更に、約30年来の高校の同期のコンペ「ODOコンペ」に途中から参加するようになった。

高校時代には殆ど会話もしたことがない者同士でも、ゴルフをとうして打ち解け、在りし日の青春時代に戻って一日楽しく遊んでいる。

ゴルフによるめぐり逢いで、まさに旧交を温めると言う事になる。

プレイ後の食事会では、世間話から始まって、ヘッドアップして、ミスした等のたわいのないゴルフ談義、旧友の動向、それぞれの健康管理など、話題に事欠かない。

お互いに齢（よわい）八十路に差し掛かったこともあり、現在のメンバー14名が全員揃うことは滅多にないが、それでも何とか3組は成立して、周辺のショートコース、ミドルコース、ロングコースと場所を変えて、月3、4回のペースでコンペを行っている。



それとは別に、近隣のショートコースで一緒に回った事などがきっかけで、那覇近郊のメンバー12、3名からなるコンペ「だるま会」に誘われて入会、

毎月定期的に参加するようになって約4年が経過した。

その定例のコンペが楽しみで、これもまた、ゴルフの取り持つ縁である。

更に、最近ではコロナで中断していた所属コースのシニア杯の月例会にも参加が出来るようになって、様々な業種の人との交わりの中で、緊張しながらもゴルフを楽しんでいる。

ゴルフをプレイする場合、その施設内に入った途端、社会通念上の袴（かみしも）を外して、お互いに一社会人としての交流であると言う事は暗黙のルールである。

その空間の中で、プレイ後に行われる食事会・懇談会は和やかな雰囲気、日頃の組織、群れをはなれた、非日常的だけに楽しいひと時である。

ゴルフが人生に例えられるように、山あり谷ありで、実のところ、いつもプレイでは必ずしも思い通りはいかない事が多い。

辛うじてアベレージゴルファー？（約10年前のH.C. 22）と言われる今のレベルではむしろ上手くないことが当たり前だ。

それでも、たまたまドライバーが「バシッ……」と、会心のあたりがでたり、ロングパットが「コロ、コロ……コロッ」と入って、思いがけずパーに巡り合うことがある。

それだけでも何とも言えない充実感を覚える。その様な事が18ホールを回っていると、突発的に、非常に稀ではあるが、複数回も経験する事もある。

「これがあるからゴルフはやめられない！」と、つい口に出てしまう瞬間だ。

このチョットした、一瞬の至福が何ともこたえられない。これもまたゴルフの魅力かもしれない。これがまた、次の練習の励みにもなって来る。

“Try! but failed…try again…Good Job!”と悪戦苦闘の連続だが飽きずに、挑戦が続いている。

次に、「見るゴルフ」。Fun of watching golf game.

例年、3月初旬、1988年に始まったと言われる琉球ゴルフ倶楽部の、恒例のダイキンオーキッド女子プロ・ゴルフ大会は国内プロ・ゴルフの幕開けだ。

春先で天候に恵まれないこともあるが、目の前の生の競技が見る事が出来るのは有り難い。大勢のギャラリーの数にしては静寂で、プロ・ゴルフ大会特有の緊張感テレビ放送にはない一種独特な雰囲気だ。

スタンドに陣取って見学も良し、コースの脇で間近に選手の真剣な表情、息づかい、打球音、ボールの落下する音等を感じながら見学するのも良し。そ

それぞれの思い入れで、ピクニック気分にも浸りながら楽しめる。

小生は携帯用折り畳み式椅子を脇に抱えて、お目当ての選手を追っかけて、見学することが多い。フト、自分自身の当コースでのラウンドが脳裏に浮かび、プロの凄さには改めて感心する。試合途中のリーダーボード前の人だかり、そこで起こる歓声、またテントの中の出店の賑わい等、その場所独特のお祭り騒ぎの雰囲気も捨てがたい。

一方、3月から11月のシーズン中、男子プロ・ゴルフ(JPGA)、女子プロ・ゴルフ(JLPGA)の大会は毎週のように国内の何処かで開催されて、テレビでも中継されている。更にアメリカでのプロ・ゴルフ大会(PGA)も頻繁に衛星放送で放映される。

ゴルフ大会のテレビ中継はこの所、以前に比べ男子では減少傾向にあるようだが、それでも週末にはいずれかの局のゴルフの放映があるので、それを楽しみにしている。

国内において、比嘉一貴など、海外においては松山英樹などトッププレイヤーの出場する大会はやっぱり見応えがある。その様な最上(ひいき)の選手の大会は録画しておいて、後日改めて見直すことがある。緊迫した場面は何度見ても、その余韻に浸ることが出来る。

今年の比嘉一貴の文句なしの4勝、堂々たる賞金王は大いに感激して、元気ももらった。

試合中、彼はポーカークフェイスで、負けん気を内に秘めて、淡々とプレイする姿には好感が持てる。無駄のないスマートな試合運びには感心し、それでも、ゴルフでは何が起こるか分からないので、一喜一憂しながらテレビに見入ってしまう。

彼のドライバーの飛距離はプロの中では必ずしも秀でているわけでもないが、アイアンの精度、アプローチの确实性の高さが賞金王に繋がったと言われている。

この事は我々へばゴルファーにも大いに示唆に富んでいて、それは励みになっている。

最近の県内出身の女子選手は不調でテレビでその姿を見る機会が少なくなったのが気になっている。しかしながらシーズン後半に、一部に復調の兆しを目にすることが出来たので、在りし日の元気な姿で戻って来る事を期待して、その時を楽しみにしたい。

男子では比嘉、星野、谷原、石川など、女子では上田、鈴木、菊池などのベテラン勢が活躍はしているが、最近では10代から20代前半の若手選手の台頭が

目覚ましいものがある。次々と主役が入れ替わり、混とんとした中で、活気が感じられる。テレビから目が離せない。

巷では、トラックマン等を始めとするAI機器がゴルフの分野にも普及しつつあり、データの分析に基づいたトレーニングなど、その成果となって、若手の台頭を後押ししていると言われている。ここにも時代の流れを感じている。

過去、2年余り、コロナ騒動で大会の開催が制限されてテレビ放送が低調だったが、それもいくらか落ち着きを取り戻して、次第に以前の状態に戻りつつある。

来年はスポンサーが増え、ゴルフ番組、特に力強い男子プロ・ゴルフ大会の放送が今年以上に増えることを期待しながら、ゴルフシーズンが待ちたい。

そして、「読むゴルフ」。

Fun of reading the book related to golf.

ゴルフ関連の雑誌、書籍は枚挙にいとまが無い程、次々と出版され、その種類は多彩で、飽きることなく様々な楽しみ方がある。

先ず、雑誌にあっては、週刊誌、月刊誌、年2回、4回の定期的な雑誌など、手を変え、品を変え、よくも話題があるものだと感心するほどだ。

書店に行くと、手に取ってみたいくなるような派手なタイトル、写真でアピールされていて、つい誘惑に負けて購入することがよくある。

一般的に定期刊行のゴルフ雑誌の内容は、ゴルフ・テクニク、クラブ、ファッションなどのトレンドイな話題が多く、要所にエッセイ、一口コラム、トーナメントの情報などが傾向的に見受けられる。

この様な週刊誌、月刊誌はチョットした気分転換として、気軽に手にすることが多い。

そう言う中、季間発行で回数は少ないが、ゴルフダイジェスト発行の「チョイス」、日本経済新聞社発行の「書斎のゴルフ」等は、内容を掘り下げた、時には古典的な貴重なテーマを取り上げた記事を目にすることがあって、何



となく気になる雑誌だ。

「チョイス」では、“チョイス人……本庄 佑（ノーベル賞受賞者）”、古くは“国内ゴルフ発祥の地、神戸ゴルフ倶楽部の当時に写真集”、などが印象深い。

又、「書斎のゴルフ」では、“中部 銀次郎 珠玉の言霊”、“ベン・ホーガン究極の練習法”など、長期保存に値する読み応えのある記事に思いがけず遭遇し、大きな拾い物をした様な満足感を覚えたことを一度ならず経験した。書店に行く折は、そのあたりのコーナーに自然と目がいく。

次に、ゴルフに関連した成書（本）も次々と出版されて、ペーパー・バックからハード・カバーと、玉石混交さながら、次々と出版されてきた。以前、書店に行く度に、別の本などと一緒につい衝動買いをし、いつの間にか本棚からあふれんばかりに積み上げ、古本業者に引き取ってもらった事がある。

ゴルフの成書の内容はレッスン書の類（たぐい）、その他レッスン書以外にエピソード・歴史、旅、心を絡めたエッセイの類（たぐい）、と多種多様である。

レッスン書はゴルフ関連の本の中で、一定の割合を占めていて、その内容は千差万別で、極端な場合は、一般的な常識とは真逆の論理だて、も見受けられる事があり読む方は混乱する事がある。

私自身、自身の能力の限界を忘れて、闇雲に、レッスン書の新しい方法を追い求め、心身がバラバラになりながら、疲労困憊した事を一度ならず経験した。

紆余曲折を経て、最近では、ゴルフの基本的な理論をベースにして、個人の感性、身体能力に応じた方法を模索して、自分流に組み立てていくしか方法がないのではないかと、ようやく考え方が落ち着いてきた。今更ながら、自分の能力の限界に気付いて、やっと気持ち解放されて楽になった。お陰で思い切りが良く、スイングが、いくらかスムーズになった。

現在は、数多くのレッスン書の中から、ハービー・ペニック「奇跡のゴルフレッスン」（マガジ



ンハウス、1993年）、福井 康雄「自然がいいんだ」（ぶんか社、1993年）に、的を絞って日々の練習の参考にしている。

それらの内容は平易だが、これまで目にした数多のレッスン書のエキスが、その中に含まれている事が少し理解出来るようになった？と、それらを基に練習に精を出している。

しかし、一方、「マフィーの法則」の中にある、「上達の第三法則」では、「ハンディキャップ24のプレーヤーで高い望みを持っている人は、24にとどまる」と、うたっている。

このことが気がかりだが、心しておかなければならない。

更に、アイルランドが生んだ往年の名選手、ハーリー・ブラドショーの至言……。

「ゴルフと言うゲームは、神経質になるほど細部が気になって、いつしか全体のバランスまで壊れてしまう。例えばトップの手首の形、この一点だけ考えても、これでいいという保証はない。つまり死ぬまで試行錯誤の道を行くのがゴルフの本質である。アマチュア諸君にとってのゴルフはあくまで楽しむのが目的、神経質になってはいけない」。このことを、常に心に留めて、無理のないようにと、自制したい。

さて、ゴルフ関連の本のレッスン書以外のゴルフをテーマにしたエッセイ、紀行など、それまた内容が多種多様で、数多く出版されている。



この様な本こそ、「読むゴルフ」の醍醐味が詰まっています、ゴルフの奥深さ、広がり更に人生の機微などを感じて、楽しみながら、時空を超えたゴルフの世界に浸ることが出来る。

「読むゴルフ」が組上（そじょう）に上がるようになったのは、夏坂 健の力作シリーズに端を発している、と言っても過言ではない。

過日、ゴルフ仲間で、高校の同期生M.Y.君が、「ウエハラ、夏坂 健のエッセイ読んだことがあるか？」と突然尋ねてきた事がある。思いがけず、一瞬ビックリしたが、夏坂の事はやはり知る人ぞ知ると、意を得たりと、暫く話が弾んだ。

夏坂はゴルフのメッカとされるスコットランド、アイルランドを主に、フランス、アメリカなど海外に一年の大半滞在して、大英図書館、セントアンドリュース、グラスゴー、エディンバラ界隈の資料館、教会などを回り資料収集、現地のゴルフ関係者とのゴルフの合間、パブ等で得た情報を基に、まだ埋もれている史実を掘り起こして、それらを丹念にまとめあげた。

ゴルフの歴史、人物、その土地の人情の機微、風物を織り交ぜた、エスプリ漂う、ユーモアたっぷりの珠玉のエッセイには、個人的に未だ遭遇したことがなく、感動さえ覚える。

特筆すべき事は、元の資料の綿密な精査は言うまでもなく、語彙の豊富さとそれを駆使した絶妙な表現力には圧倒され、流れるような日本語の豊かさが堪能できる。

その内容は、単なる競技としてのゴルフを超えて、歴史・風物・心理・社会情勢・器材の変遷、などを集大成した「ゴルフ学」と規定するに、異論の余地はないとさえ言われている。

彼は、平成2年（1990年）から平成12年（2000年）頃にかけて、「アームチェアー・ゴルファー」等のタイトルで、複数の週刊誌にゴルフのエッセイを連載したようだが、それらを基にして、加筆修正して書籍化した。

手元には「ゴルフの神様」（講談社）、「ゴルフを以って人を観ん」（日本経済新聞）、「ゴルフの風に吹かれて」（新潮社）、などハード・カバー本が10冊、それぞれ出版社が異なり、それぞれに索引がついていて、250～300ページの豪華で、不世出とも言える傑出した本の集団である。よくもゴルフと言う一つのスポーツを対象にして、それぞれに個性のあるテーマでこれほど多くのエッセイを書き上げたか、ただ驚くばかりである。

小生は十数年前、書店で偶然に手にして、その内容に魅了されて手当たり次第に、それら夏坂の本を求めて収集した。その他内容が重複することもあるが、文庫本（新潮文庫）、ソフトカバー本（ゴルフダイジェスト社）等、がある。

独立したテーマを5～10ページにまとめられて、どのテーマから読んでも話が完結するので、好きな箇所を拾い読みするのも都合がよい。スコットランドの伝説的ゴルファー・トム・モリス、悲劇のヤング・トム・モリスなど、胸を打たれるような、優劣をつけ難い数多の物語が満載されている。



トム・モリスとトム・モリス・ジュニア

スコットランドのゴルフに対して、歴史的には遅れること約400年、アメリカのゴルフを忘れてはならない。多くの名選手、歴史に残る競技を生み出し、今では世界のゴルフ界の牽引者としての役割はゆるぎない。その中であって、傑出した伝説的プレーヤーのボビー・ジョーンズがまず浮かんでくる。

1930年前後、アマチュアの身で全英アマ、全英オープン、全米アマ、全米オープンの四大タイトルを獲得し、前人未到の年間グランドスラムの偉業を成し遂げた。

また、マスターズ・トーナメントの生みの親でもあり、究極のゴルフを求めて、プレーヤーとしては28歳で引退した後、そのオーガナイザーとして活躍した。

その傍ら、彼はゴルフのみならず、ハーバード大学、ジョージア工科大学、エモリー大学に進み、彼の後半の人生は弁護士としてその生涯を全うした。

彼の著書として、「Down the fairway」、訳本（ゴ

ルフダイジェスト社)、「ゴルフの真髄」、「続・ゴルフの真髄」(阪急コミュニケーションズ)等の自筆の著書がある。

その内容は単なるゴルフの秘訣、技術的な事柄のみならず、精神面の秘訣、ゴルフの哲学的側面を単純明快に述べて、あたかも宮本武蔵の「五輪の書」を彷彿とさせると評されている。それ故に彼が90年前に明かした、そのゴルフの秘訣は今もって不滅なもので、彼の著作が“ゴルフのバイブル”と言われる所以(ゆえん)である。

記述が単純明快で初心者にも理解しやすく、現在でも通用する普遍的なゴルフの精神・技術のみならず、晩年日本をよく訪れた事でも馴染み深く、サンドウエッジを考案したジーン・サラゼンとジョーンズのマッチプレーの逸話など、多くの物語なども楽しめる。



ジーン・サラゼンとボビー・ジョーンズ

更に、肩の凝らない、気の置けないゴルフの読み物として「文士のゴルフ」(展望社)はお勧めしたい一冊である。当時の文壇にはいくつかの作家仲間のクラブがあったようだが、この本はその中の一つ、丹羽文雄を中心とした「丹羽学校」のエピソードが綴られている。

第二次世界大戦後、戦後復興が進んで、景気が回復し、大衆文学を中心に出版界も活気が出て、多くの作家が生み出された。それぞれの作家にも生活の余裕が出てきた。

その様な時勢に昭和37年(1962年)丹羽文雄によって軽井沢を中心にして、文士の通称「丹羽学校」が自然発生的に誕生した。

一人、室内で机に向かって執筆に明け暮れる作家

にしては、同業の者同士が集まって、健康の為ばかりではなく、親睦と情報交換の場として屋外スポーツのゴルフはうってつけだったようだ。

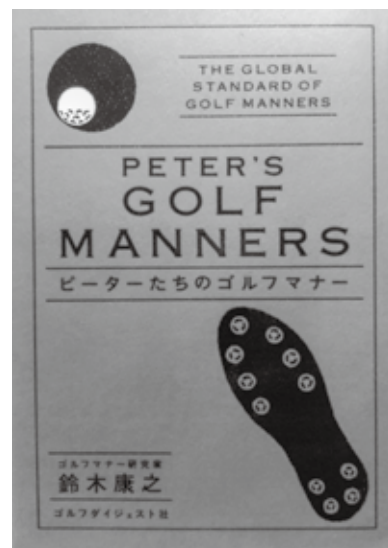
丹羽学校の会員は途中、出入りはあるが、柴田錬三郎、源氏鶏太、阿川弘之、井上靖、水上勉、川口正太郎、城山三郎、中野好男などの錚々たる顔ぶれで、総勢14、5名であった。

一匹狼的な文士同士のやり取りは、個性的で、軽妙洒脱、時には抱腹絶倒しながら次々に展開していくエピソードに最後まで目が離せない。

以上の本以外に、「読むゴルフ」の対象は、くめども尽きない程多く、好みに応じて飽くことなく「晴耕雨読」ならぬ、「晴打雨読」とゴルフコースから離れても、“arm chair golfer”(机上のゴルファー)としても大いにゴルフは楽しめる。

「プレイする」、「観る」、「読む」と分けて記述したが、これらが一つになってはじめて、ゴルフの真の楽しみ、豊かさが醸し出される。とかく、意識がプレイ中心に偏る傾向にあるやに思われるが、ゴルフには長い歴史があり、地域、世代を超えたスポーツだけに豊かで、奥深く、様々な観点から見直してみる事で、新しい発見があるかもしれない。

そして、ゴルフをプレイする際に忘れてはならない事は、「プレーヤー本人は、同時に審判でもある」、「ボールは、あるがままの状態で打つ」、「同伴者に礼を尽くす」、この三項目がゴルフの根本的理念であるとされている。この理念に基づいて自己規制、自己責任の下、マナーを重視してプレイする事、これが即ち「紳士のスポーツ」と言われる所以(ゆえん)である。この事を認識して改めてゴルフの素晴らしさを再確認したい。



終わりに；

過去に、思い出したように何度か英会話教室に通ったことがある。全て中途半端に終わったが、その際、一般的にレッスンは趣味の話から入っていた。

“What’s your hobby ?”、とか “What do you do in your free time ?” と訊かれてその都度、答えに窮した。その都度 “Reading a book”、とか “Drawing”、と無難な返答をして、その場をしのいで来た。ある時は、とっさに “Piling up books” (積読) 口から出て、通じたのかは不明だったが、講師に苦笑いされた事もあった。

無芸大食を地で行くように、やる事が中途半端で、小生から仕事を取り上げたら、何も残らない典型的な無為徒食な人生を歩んで来た。

十数年前、我が娘から「お父さんの趣味は何なの？」と尋ねられて答えに窮した事がある。

プロ級の音楽を持ち合わせている、本会員 I.A.氏、また、国内外を股に、蝶の収集に精力的に飛び回っている高校の同期でゴルフ仲間の、内科医 I.M.君など、素人離れした趣味を持ち合わせている姿には羨ましさを超えて、尊敬の念さえ持っている。

それに対して、自分は自分なりに仕事をやった、それも人生だ、それでよし！と……へんに自分を納得させていた。

半世紀前、ゴルフに手を染め、仕事の合間を縫うように、断片的だが、懸命に練習を続け、彷徨い(さまよい)ながら一向に進歩がなく、毎月、ホームコースの仲間4名のコンペでは、スコアが三桁で終わった。その都度、お互いに、慰め合うように相槌をうっていた。

当時、妻から「あなた達はライオンズ・クラブのメンバーの資格が十分にありますネ」、とスコアを110近く出す事から、“百獣の王ライオン”に引掛けて、“宣告”された事がある。

70歳を過ぎて、そろそろ仕事の荷を降ろすようになった頃、何気なく、以前に読んだレッスン書を再三読み返して、“はっ”と思いついた事があった。

それを頭に入れて、複数の上級者のスイングを注意深く、近くで見て確認し、それに小生なりの感覚などをかみ合わせて、次のように、見立てた。

それを要約すると、「力を抜いて自然体で構え、体幹主導で、ゆったりとクラブを上げ、トップで、コックして、クラブ・ヘッドの重みを一瞬感知する。ダウンスイングは右側上腕を胸郭に絞りなが

ら、インサイド・アウトに下ろし、そしてフォローでインに振りぬいていく。更にはダウンスイングからフォローにかけて、頭をビハインド・ザ・ボールのイメージで残す」事。

以上の事は個人的な感覚ではあるが、さまざまな型のプロのゴルフスイングにあって、共通して見られる基本的な事ではないか、と思い巡らしている。

小生の見立ては正鵠を得ているのか、心もとなく確信がない。直々に、コメント頂ける機会があると有り難い。

その様な事で、スコアは未だに高止まりではあるが、力が抜けて以前に比べてスイングがやや安定して振り切れるようになり、コースでの絶望的な崩れ方は少なくなっている。

試行錯誤は続くが、練習が楽しく、コースに出て実戦で色々試している。

それなりに予知性が高くなり、工夫出来るようになった。たとえ失敗しても、それ程には堪(こたえ)ない。

これから先も、多くの方々とゴルフが出来る事を感謝しながら、自分の可能性を否定せず、しかし背伸びはせずに節度を持って挑戦し、楽しみたい。

「プレイするゴルフ」、「見るゴルフ」、「読むゴルフ」、これらを一つにして、“いつから始めても良し、技量を問わず、ライフステージに応じて、永く続けられるスポーツ”……

そのような事からも、ゴルフは、誰でも、いつでも、楽しめる「生涯スポーツ」であると言える。最後に「もし我々が失敗から学ぶならば、ゴルファーは地球上で最も学んだ人々である。」(マーフィ)。

完

個人的な拙い経験を基に、ゴルフの見方、楽しみ方などを、思いつくまま述べさせて頂きました。冗長で、取り留めがなく申し訳ありません。

恐縮ですが、その行間から、小生の意図する所を少しでも感じて頂ければ、有り難いです。

最後まで、この拙文に辛抱強くお目通し頂きありがとうございました。

この機会を与えていただいた、梅村 誠先生はじめ編集委員の方々、お声がけして頂いた 長堂芳子先生に厚く御礼申し上げます。

本稿のレイアウト等で御協力いただいた事務局の上江田浩明氏に感謝申し上げます。

追記：

*紙面の都合上、言及しませんでした。ゴルフ場と自然環境問題に関心のある方へ・・・

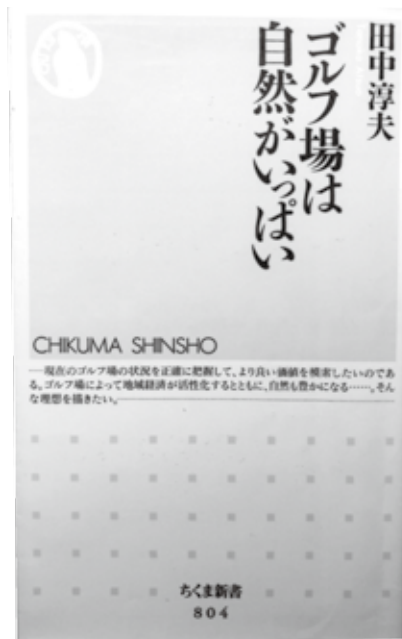
田中淳夫著「ゴルフ場は自然がいっぱい」を紹介させていただきます。

著者、本人自身ゴルフには全く縁の無いとの事。森林関係、田舎暮らし関係の数点の著書を出しているフリーの森林ジャーナリスト。新しい発見があります。

*お詫びを兼ねて……

約5年前の本誌の小生の投稿物に、基本用語の重大な誤りを後年になって気づき、取り返しのつかない事だと、今もって申し訳なく、恥じ入っています。それに懲りずに、敢えて今回、投稿させて頂きましたが、全ての誤りは勿論、小生にその責任があります。

ご指摘、ご指導頂けますれば幸甚です。



オアシス

オアシスとは「広辞苑」によりますと「砂漠中で水がわき、樹木の繁茂している沃地。生物群集の形成、隊商の休息などに役立つ。慰安となるもの。また、その場所。」とあります。

厳しい、混迷な社会情勢の中で歯科界もその流れに翻弄され、会員の皆さんは真に砂漠の中にいる感じです。そのような乾いた状態だからこそ、皆さんの湧水のような潤いのある討論等が求められると思います。

字数、形式、格調にとらわれずご投稿下さい。会に対する意見、希望、家庭内やグループのこと、又、過去の思い出、現在の心境、未来への期待などなんでも宜しいです。



皺

南部地区会員 伊禮 昭 洋

皺という漢字の偏はささくれだっていて、いかにもそれらしく表現されていて醜い文字だ。語源には萎縮するの動詞、シワムの名詞形だがシワムの語源は未詳とのこと、「シオレ(萎れ)タルモノ」から来たとの説もある。やはり感じが悪い。皺と言えは老人に付きものではあるが往年の歌手や俳優がテレビに登場するときに、その皺を見ていると当時の燦然と輝いていた姿が目には焼き付いているだけに、いかに時間が過ぎ去ったかが実感され、哀れを誘う。とりわけ最近のテレビは高画質で細部の皺までくっきり映し出すので尚更だ。モザイクはいきすぎだろうが軽いボカシとかズームアップしないように気を配ってほしいものである。最近気になるのは宮沢りえさんの法令線。この二本の皺だけで随分老けたようにみえる。皺も場所によって感じも異なるもので、「尻尻に皺を寄せて笑う」のように、好ましい皺もある。漫画「ゴルゴ13」の主人公には目頭から頬の斜め下にかけての皺は屈強なイメージをだしている。ジョン・ウエインや春日八郎の頬の縦皺も同様に男性的で魅力がある。眉間にできる皺は深刻な悩みを抱えているようで、好ましいものではないが、誰が見ても嫌なのは首のたるみだろう。イグアナを連想してしまう。手の甲と首の周りの皮膚の変化は年齢相応に出てくるものらしく、予防方法はないとのこと。美容の最大の敵はやはり皺のようで、テレビ・コマーシャルで盛んにスキンケアのことが宣伝されている。美顔パックは今では通常行われているものと思うが、それに関し忘れられない記憶がある。中学生の頃、母が顔の手入れをしているとこ

ろに用があり背後から「お母さん！」と呼びかけたら、暗い裸電球の下で振り向いた顔は目と口だけが開いたのっぺら坊を連想する真っ白な顔だった。心臓がとまるほどびっくりして数歩後ずさりしたほどだ。スキンケアは女性ばかりかと思っていたら結構男性もやっているようで、2012年英国の調査会社ユーロモニターによると国別の男性のスキンケアにかかる費用のトップは韓国で6億6500万ドル、世界の21%を占めていて、次いで中国、日本、米国の順となっている。1人当たりの消費では、無論韓国が断トツで11,33ドル、2位のデンマーク4,3ドルを大きく引き離している。ちなみに日本は6位の2,11ドルで韓国の1/5に過ぎない。韓国男性はお肌の手入れに余念がないようだ。しかし女性を含めたトータルすると1人当たりの消費では日本が152,33ドルで世界一なのだ。韓国は4位で78,55ドル、日本女性がいかに肌に関して気を使っているかが覗える。

誰しもシミや皺がなく、いつまでも若々しくありたいもので、美容整形で対処する人も多い。皮膚にヒアルロン酸やPRPを注入したり、「ボトックス」というボツリヌス菌から抽出された神経毒を用い、筋の緊張を弱めて皺を伸ばすやり方や、外科的には頭皮を切開し顔面の皺を引き伸ばして縫合する方法もある。数年前だが口腔の全体的な診断をするためCT撮影をしたら、画面全体に細い網目状の線が写っていたので、機械の不具合かと疑ったのだが、問診でフェイスリフトのために金の糸を埋め込んだということが分かった。ここまでやるものかと女性の

美に対する執念の恐ろしさを感じた。老いに皺は付きものではあるが、進行を遅らせる方法はあるようだ。頭皮ストレッチをして血行を良くして、頭蓋骨がスムーズに動くようにするといいらしい。また作り笑いではなくて心の底から笑うことも表情筋を鍛えることになり予防になるとのこと。笑いと言えば、私のクリニックで勤めていて70歳で退職した技工士で、心優しく、いつもにこやかな表情を絶やさない方がいた。毎月口腔ケアのために来院するので、その都度お会いしていたが、現在80歳を越しているものの、皺が殆ど無く60代にしか見えない若さに驚かされる。来院の都度は相変わらずの笑顔でスタッフや私に話し掛けてくる。心も本当に若々しくて、我々は彼のことを「万年青年」と形容していて、その若さの秘密（秘訣）は曇りのない純真な魂から出てくる笑いにあると確信している。逆に悲観的な生き方をしている人はどうだろうか。俯き加減な姿勢になりやすく、表情も乏しくなり、顔の筋肉を使うことが少ないので表情筋が衰え、口角のたるみや頬のたるみが現れやすくなるとのことだ。また俯く姿勢をとり続けていると、広頸筋に負荷がかからなくなり、広頸筋がどんどん衰えることで、ほうれい線や口角が下がるだけでなく、首の皮の張りが失われ、イグアナのような深い横ジワが刻まれる原因になるらしい。楽天的に生きるのいいのだろうが、性格や心理状態をそうそう簡単に換えられるものではない。悲しいときはイグアナの首になることを思い起こし、胸を張って背筋を伸ばすようにするといい。多分そうすることにより気分も晴れるだろう。脳と行動は深い関係があり、エール大学のシュワルツ教授の研究は有名だ。笑ったときの顔の筋肉を調

べ、それと同じような表情になるように顔の筋肉を電氣的に刺激して、笑い顔を作ると、なんとなく楽しい気分になったとの実験結果を得ている。「悲しいから泣くのではない、泣くから悲しいのだ」との有名な言葉はこの実験に由来している。

翻って自分の顔を見るに、年相応だとは思いますが、還暦を過ぎたあたりから皺が多くなってきた。今でも明確に覚えているが、高校2年生の夏休みの朝だった。いつもは何気なく髭を剃っていたのに、その日は何故か鏡を食い入るように自分の顔を観察していた。シミや皺のない艶やかな皮膚、白髪のない黒髪、澄んだ瞳、こんな若々しい肉体が年齢を重ねると、老人の顔貌へと移りゆくものかと信じ難かったのだ。今ではその鏡に写った当時の初々しい顔がどうだったか思い出せない。ともかくこの先この顔に益々深い皺が刻み込まれてゆくのは間違いない。いわゆる醜くなっていくのだが、それは自然の摂理、然らばそれに立ち向かう術は何か？人間の尊厳つまり知性を高めることしかないだろう。幸い脳は鍛えれば新たな神経繊維の結合ができ、成長するものらしい。知能の高い動物は脳の皺が多いとのことだから、人間も皺の多いほど知能が高いと、確証はないもののそう信じられている。知的好奇心を失うことなく、貪欲に知識を吸収し、脳を活性化するような活動をすることが肝心のようだ。老齢に達したら表面の皺を憂うのではなく、内面の脳の皺が増えているのを憂うべきだろう。内面の皺は一挙に増えるものではない。若い時から地道な努力が必要なのだ。ということで皺はシワサンケー（心配するな）としよう。



IT 機器 (Information Technology)

南部地区会員 伊 禮 昭 洋

もう20年以上も前、電子メールとかインターネット、ドットコム、Yahoo! というような聞き慣れない耳障りな語句が初老の耳に入るようになってきていた。あまり気にしていなかったが、好奇心旺盛な歯科医の友人から「人生の新しい展望を開く鍵になるかもしれない画期的な発明品だから始めてみたら」との勧めでパソコンを購入した。初めて手にしたのはシャープのメビウスだった。当時は30万円近

くもする代物で、躊躇ったが、彼の親切なアドバイスを裏切りたくなかったので、不安ながら手にしたものだ。まずキーボードのアルファベットの位置を憶えるのが大変だった。ある程度記憶した後は通りを歩きながらも看板や宣伝文字を目にしたら両脚をキーボードに見立てて文字位置をイメージし、左右の指でタイピングすることで、無意識に動かせるようになるまで練習した。われわれの年代で

はこの操作がスムーズにゆくかが第一の関門だ。今の若者は片手でスマホの文字をいとも簡単に打ち込んでいて、その手さばきはまるで手品のようで、その順応の速さに驚く。あの若さを今更に羨ましく思う。ともあれ第一関門は通過できた。

メールのやり取りができるようになると、その便利さに驚いた。これまで切手を貼ってポストに投函しなくてはならない煩わしさがなくなった。一番嬉しいのはワープロ印刷ができることだ。悪筆の悩みから解消されたこと、また漢字変換や文章の入れ替えが容易に出来るので、文章作成が驚異的に速くなった。疑問点もGoogle検索やYouTubeで即座に回答が得られるのでかなり時間の節約ができる。年賀状や暑中見舞い文も一瞬にして大量の印刷ができるので本当に便利な機器だと思った。

節約と言えば楽譜書きも大いに助かっている。入力も簡単になったが、調の変換もワンクリックだ。例えばハ調をト調へ変化するのに手書きでは大変だ。5度上げていちいち書き直さなければならない。これが大譜表になれば尚更である。コンピューターソフトが開発される以前はこの機械的な単純作業に莫大な時間を費やしたのだから音楽家も大変喜んでいるに違いない。語学学習に於いても効果抜群である。英語学習で、以前は時間をかけ辞書をめくって単語の検索をしていたが、コンピューターでは数秒しか要しない。英作文もAIトランスレーターを使えば容易だ。英文法やスペルの誤りをも即座に指摘してくれる。感心はあるが、もう歳だからと語学を諦めている方がいたら是非この機器に習熟するといい。失われた若き日の時間は取り戻せるはずだ。

この機器が扱えるようになった最大の喜びの一つはビデオ通話ができること。電話とは異なり、相手の表情を見ながら会話ができるので、窓越しに話しているようで親密さも倍増する。世界中の人と話せるのだから、こんな便利な道具はない。実際カナダに移住したスリランカ人の友人と毎週通話しているが、秋を告げる紅葉や庭一面の雪景色を写真で説明してくれるので、生活状況もよく分かり話も弾む。これは英語学習とりわけ会話の練習には大きな武器になる。若いころ英会話教室に通いたいと思っていたが、仕事で遅くなったり、仕事疲れもあり、なかなか継続できなかった。しかし今では早朝であろうと真夜中でも書斎から授業が受けられるのだ。因みに私の英語の先生はフィリピン人で、毎日1時間程対面形式で、会話をしている。もう5～6年も続け

ているが語学の才無き故、上手く表現ができず四苦八苦しているが、どうにかコミュニケーションが取れるようになり、それなりに会話を楽しんでいる。ともあれ昔とは比較にならないほど語学学習が容易になったのだ。このシステムは他のいろいろな分野でも活用されるようになってきた。因みに私が関係している歯科医療の分野においても多いに助かっている。従来は最新の知見やテクニックを習得するのに東京や大阪などの大都会での研修が主であったが、今や書斎にいながらzoomで受講できるのだ。国内にとどまらず外国での研修も可能である。経済的、時間的にもかなりの節約になっている。

NHKの「プロフェッショナル」の番組で見たのだが、高名な心臓外科医が遠隔地から手術中の若手の医師の実際の現場の映像を見ながら「右側の血管の走行に気を付けて、メスを少し斜めにして剥離するように」等とパソコンを操作しながら細かく指導していた。まさにIT革命だ。

われわれの生活、取り分け知的生活には今や不可欠なアイテムである。この機器を取り扱えるかどうかで、そうでない人との情報量に雲泥の差ができるのは明らかである。それは文化的な違いだけではなく、経済的な利益にも大きな差を生むだろう。たとえば株取引に於ける情報だ。世界各地で起こる紛争や自然災害、政治的対立、技術のイノベーションは直ちに株価に反映されるので、いち早くその情報をキャッチすることが利益にもつながってくるからだ。

最近の発明でVR (virtual reality) と言うのがある。Googleのようなものを掛けると、まるで異次元の空間に飛び込んだかのような錯覚に陥るのだ。実際ジェットコースターのゲームを試してみたのだが、急カーブで下降してゆくときには平衡感覚がおかしくなりバランスが保てなくなり転んでしまった。ロボットと手を取ってダンスさえできるのだから、これはテレビの画面を見ているのとは全く異なる。テレビや映画では画面から一步隔てて鑑賞しているという気分だが、このVRは自分自身が異次元に迷い込んだ感覚になる。このソフトがより高度化し会話ができるようになると、麻薬のように耽溺してしまう可能性は十分に考えられる。昔見たチャールトン・ヘストン主演の映画で、題名は思い出せないが、環境問題をテーマにしたものだった。地球が汚染され、街は煤だらけで湖や川は汚泥となってしまう、緑豊かな自然環境が消失してしまうのだ。そ

んな背景設定で、臨終間際の人が、かつての美しい景色を見て死にたいとの要望があり、映像を見せるシーンがあった。その映像とは清らかな小川の流れ、せせらぎと小鳥のさえずりが聞こえ、緑映える美しい森を映し出したものだった。現在のVR時代ならあの世へ旅立った父母兄弟を登場させ、花園で会話をしている世界をも提供可能だろう。さすれば、必ずや心安らかに旅立つこともできよう。

VRを経験して思ったのだが、我々が現実として受け入れているこの空間もひょっとして仮想なのかもしれない。それは人類が言葉を操れるようになって、空想できる能力を得たからだ。海の彼方への好奇心が船を、空への憧れが飛行機を、電話、メガネ、鉛筆、などなどすべて想像力の成せる業なのだ。われわれの生活環境は素材としては自然のものだが形状は人工物だ。つまり我々はある意味で脳の世界に住んでいるとは言えまいか。文化の面でも同じだ。音楽、絵画、物語、そして幽霊やら神までも創り上げてしまったのだから。

情報が一瞬にして世界中を駆け巡るので、科学もこれまでにない速さで発展してゆくことだろう。ソビエトで映画化されたポーランドのSF作家、タニスワフ・レムが描いた惑星『ソラリス』のように我が地球も脳組織で形成された天体の様相を呈している。最近のAIのように人工知能の発達ぶりを見ているとその感を強くする。何しろ世界のチェスや囲碁、将棋のトップ・プレイヤーを打ち負かすのだから。天体観測に於いてもその威力を発揮している。理論的に知られていたブラックホールを地球規模の電波望遠鏡ネットワークを使って天の川銀河の

中心にある巨大ブラックホールの撮影ができるようになったのだ。この様なことを可能ならしめる技術を手にしている人類は最早神の領域に近づいたと言っても過言ではないだろう。知恵の実を食したアダムの子孫がここまで文明を発展させるとは思ってもいなかったに違いない。神は自然を創ったかもしれないが、そこにはないものつまり文明、文化は全て人間の手で作上げたのだから沈黙の宇宙の中で微小とは言え、ある意味神と対等なのだ。

これらのIT技術はどこまで発展してゆくのだろうか。もっと色々な便利な事、楽しいことを提供してくれるに違いない。この技術ははまだ緒に就いたばかりだ、未来を想像すると、楽しくなる。残念ながら傘寿も近い、その恩恵を受けるには残り時間も少ないが、友が勧めたパソコンのお蔭で、いろんなことができるようになった。もしこの便利な機器を扱えなかったら、計り知れない損失を被っていたのだ。始めたのは還暦の半ばを過ぎていたので、同年代で扱えない方も多いのではないかと思う。私は最終便の飛行機に辛うじて間に合った幸運な乗客だった。到着地は知らないが、それはそれで楽しいものになるだろう。友の言った「人生の新しい展望が開ける」の言葉は益々確かさを帯びてきたように思う。



ダラダラ食い 虫歯の原因



徳田安成

とくだ歯科クリニック(那覇市)

今回は、虫歯予防についてお話ししようと思います。一つは皆さんご存じの歯磨きです。ちゃんと磨いているつもりでも、虫歯ができる方がいらつしやいます。もう一つの原因として考えられるのが、飲食の仕方です。糖分を含んだ食べ物や飲み物を口にすると、虫歯菌が速やかに酸を作り出し、元々中性だった口の中が酸性になっていきます。そうすると、脱灰といって歯の表面のミネラルが溶け始めます。しかし食べ終わったり飲み終わったりすると、唾液の力により中性に戻そうとする力が働きます。唾液の「緩衝能」と呼ばれています。

さらにその後の役割として、この唾液の力で口の中が中性に戻ると、一度溶けた歯の表面のミネラルが再び歯に入り込んで再石灰化という虫歯予防効果が発揮されます。しかし、再石灰化は飲食後1時間程度かかります。その1時間の間に再度糖分を含んだ食べ物を口にすると、再石灰化はうまくいかず、虫歯発生を抑える力が弱い状態が続いてしまい、結果として虫歯ができやすい口内環境になってしまいます。

飲食の仕方

子どもがいる家庭では、きょうだいの中で虫歯ができやすい子とできない子の違いが見られることがあります。それはブラッシングの仕方よりも唾液の働きの違いが大きく、清涼飲料水が原因のことが多い印象です。よく磨けているものの、虫歯になりやすい方もいらつしやいます。生活習慣を聞いてみると、糖入りのガムやあめ玉をよく食べていることが多く、冬場にのどあめをよくなめるという人もいます。虫歯になるのはそれが原因と思われれます。高濃度キシリトール入りであれば問題ありません。昔からいわれているダラダラ食いがよくないのはこのような理由です。①ガムやあめを長時間口に入れない②飲食物を摂取したらその次まで最低1時間以上空ける③食べ物と同時に取る飲み物は、水かお茶にする一を習慣にすると、効果的な虫歯予防になります。||第3水曜日掲載

令和4年11月16日(水曜日)

乳歯の時期は心配無用



山内昌浩

山内矯正歯科クリニック(嘉手納町)

【空隙歯列】とはすきっ歯のことです。歯と歯の間に隙間がある状態で、審美的、心理的な影響などがあります。原因は①舌が大きい②舌の位置の不正③舌の癖④元々歯が小さい⑤歯が欠損している⑥歯が骨の中に埋まっていて生えていない一などです。

【永久前歯が生えそろう時期の空隙歯列】上の中央の前歯が空隙を伴って扇状に傾斜して生えている状態を心配して来院する患者さんがいますが、この時期一過性のもので、基本的には矯

すきっ歯

正治療を必要としません。次の前歯や犬歯が生えるのに伴い自然に治ることも珍しくありません。一見歯並びが悪く美しい白鳥のように美しい歯並びになることから、この時期をアンデルセンの童話にちなんで「みにくいあひるの子の時代」ともいいます。ただし、過剰な歯があつたり、上唇から歯肉に至る中央のヒタ(上唇小帯)の付着異常などが原因の場合もあり、治療が必要になることもあります。

【永久歯が全て生えそろう後の空隙歯列】この場合は治療が必要です。歯にボタンのような装置(ブラケット)とワイヤを装着したり、最近ではマウスピースを使ったりして空隙を閉鎖します。舌の癖が原因であれば、舌のトレーニングなど筋機能療法(MFT)や、舌を前に出させない装置(タンゲクリップ)を併用します。その後、歯の後ろをワイヤで固定したり、マウスピースを使用したりして歯並びを維持する保定が必要で、3カ月毎の通院を要します。空隙歯列は後戻りしやすく、長期管理が大切です。欠損がある場合は、その歯を補う治療(補綴治療)をする

令和4年12月21日(水曜日)

地方紙だより

琉球新報 2022年11月16日

小学生用食育副読本「うちな
あ〜のくすいむん くわつち〜
さびら」が、内容の再構成と最
新データに一新する目的で、改
訂版の作成が行われた。初版は
2015年で、7年ぶりとな
る。

小学生用といえども内容には
目を見張るものがある。沖縄県
はかつて寿命が男女共に全国1
位だったが、2015年度版で
は、47都道府県中、女性が3
位、男性が30位に転落したこと
(10年データ)が記載されてい
る。いわゆる330ショックで
ある。22年度版では女性7位、
男性36位(15年データ)とさら
に転落し、悪化傾向にある。

他にも驚くべき
データが掲載され
ていた。沖縄県は
周囲を海で囲まれ
た島でありなが



玉城 斉

論壇

ら、那覇市は全国で最も魚介類
を食べていない県庁所在地とな
っていた。逆にポークやコンビ
ーフなど、加工肉を全国一消費
している。健康長寿を目指すな
らば、本来は逆ではないだろう
か。魚は歯だけでなく、骨や体
にとつて良質な成分が多く含ま
れ、寿命延伸に寄与する食材

て寿命を削っていると考えるの
であれば、憂慮すべき事態だと
思う。

私たちは遠い昔、先祖の時代
から、海からの恩恵を頂くこと
で、健康を保持し、命をつな
ぎ、現在に至っている。

子どもたちにも、もつと魚を
食べてもらいたい。丸ごと1

「健康長寿日本一」取り戻そう

全県挙げて魚介類推奨を

だ。105歳まで現役を全うし
た、聖路加国際病院元名誉院長
の故日野原重明先生は毎日魚を
食していたという。

患者に魚を食べているか聞い
てみた。すると「魚は値段が高
い」「骨を取るのが面倒」など
の理由で他の食材を選ぶ傾向に
あるらしい。しかし、魚を避け

匹、3食食べる必要はない。副
読本では、小学生であれば、1
日に1食を片手に乗る量(約50
g)が目安とされている。

県民は、その重要性を認識し
ているのだろうか。魚介類を大
いに推奨すべきだと考える。肉
フェスは定期的に開催されてい
る。コンビニでも、ハンバーグ

やチキンなど肉類のキャンペー
ンを行うが、魚はあまり目にし
ない。健康長寿をテーマに、昆
布やモスクなど、海藻類も含め
た「海の幸フェス」を開催して
も良いのでは。年に1回、魚介
類を食する月間を設けてはどうか。
行政や医療界、教育
界だけでなく、経済界、食品業
界、他の業界も巻き込んで、全
県挙げて取り組み、県民の方向
性(ベクトル)を「長寿県復
活」に、意識改革を行うことが
必須と考える。

このままでは、長寿ランキン
グで沖縄は、さらに悪化し「病
の島」短命県となる。健康の土
台は日々の食にある。子や孫の
ためにも「健やかなる島」かつ
ての「健康長寿日本一」を取り
戻さなければならぬ。

(南風原町、県歯科医師会理
事、63歳)

●琉球新報

令和4年11月16日(水曜日)

地方紙だより

論壇



照屋正信

小・中学校の子どもたちの学校健診が毎年、実施されている。眼科、耳鼻科、内科、歯科疾患などのスクリーニング（一次）健診を校医が担い、生徒の異常を見つけ、より正確な診断のために医療機関への橋渡しをする。医師・歯科医師の団体である沖縄県保険医協会は、これまで、全県下の小・中・特別支援学校の健診結果を養護教諭の協力の下に分析し、公表してきた。6年前には50%の学校からアンケート結果が得られたが、新型コロナ

沖縄の子の未受診率

ナがまん延した直近の2年前の調査でも20%の報告があった。2016年の歯科検診の調査結果では、18他府県との比較検討で、当県の要受診者率つまり虫歯がある者は、他府県と比べ最下位の39%であった。その内の未受診者率、つまり学校が治療勧告書を発行しても医療機関を受診しない生徒も同様に最下位の71.9%にも及んだ。

直近の20年における各科別の健診結果（回答率20%）は次の通りであった。眼科は要受診者3.5%に対し、未受診者は91%。以下同様に、視力検査38%に82.2%、耳鼻科6.1%に85.5%、聴力検査1.3%に66.4%、内科3.2%に68.3%、歯科38.4%に85.3%。驚くべきことに異常が指摘されても、多くの子どもたちが病院に行かず放置しているのである。何故だろうか。

現場の養護教諭からの意見欄にはこう記されている。「治療に行きたいが保護者が忙し過ぎて受診できない」「母子家庭で夜間の勤務なので昼間は寝ていて連れて行けない」「保護者に経済的、時間的余裕がない」「治療費助成の対象であるが十分に活用できない」「離島や地域に病院がない」「子供や保護者の意識が低い」

加えて「兄弟や保護者のお下りの眼鏡を使用している」「難聴児への補聴器の補助」「肥満と低栄養の増加」「コロナ禍での生活リズムや食生活の乱れ」「交流サイト（SNS）や動画、ゲーム時間の増加」「コロナ感染の恐れによる不登校や受診拒否」なども指摘している。

関係団体が懸命に対策・連携しているにもかかわらず、異常がある未受診者率に、顕著な改善が認められていない。将来の沖縄を担う子どもたちの異常は今後も引き継がれていくことになる。

当協会の分析で要受診者率、未受診者率ともに子どもたちの貧困率と正の相関が認められた。沖縄の子どもたちの貧困率は極めて高く、健康に育つための不利な環境が根底にある。本年度から、中学まで子ども医療費の無料化も実現された。大人一人一人の問題として考えたい。（沖縄市、県保険医協会理事、75歳）

貧困と関連不利な環境に

● 沖縄タイムス

令和4年12月7日（水曜日）

理事会報告

■ 令和4年度 第16回定時理事会 令和4年11月22日(火) 午後8時 口腔保健医療センター

I. 報告事項

1. 県立南部医療センター・こども医療センター地域医療支援病院運営委員会出席報告
2. 健康おきなわ21(第二次)等最終評価・次期計画策定に係る総括委員会出席報告
3. 令和4年度第1回九州各県歯科医師会専務理事会出席報告
4. 第36回沖縄県歯科医学会開催報告
5. 第39回日本障害者歯科学会出席報告
6. 令和4年度歯科医療従事者技術向上支援研修会開催報告
7. 令和4年度第2回沖縄県認知症疾患医療連携協議会Web開催について
8. 第三期沖縄県医療費適正化計画の取り組み状況について
9. 令和4年度がん教育総合支援事業「がん教育シンポジウム」の開催について
10. 令和4年度院内感染対策講習会の配信開始について
11. 令和4年度「遠隔医療従事者研修」開催について
12. 「レセック3」の事業終了について
13. 入院時における付き添いの受入等にかかる留意事項について
14. オンライン資格確認義務化に関する要望について
15. 物価高騰の影響を受けた施設等に対する経営資金又は長期運転資金について
16. 新型コロナウイルス感染症対応医療従事者支援制度の令和4年度分募集停止について
17. 令和4年の歯科医師の届出について
18. 県民が安心して暮らせるための四師会協議会医療・介護人材の育成確保対策ワーキンググループ第3回在宅ノウハウ連携研修「在宅医療はワンチームで～栄養管理～」の配信について
19. 第3回日本口腔衛生学会認定地域口腔保健実践者研修会の開催について
20. 「ETC車載器購入助成キャンペーン2022」の周知について
21. 委員会報告
 - ①学校
 - ②学校歯科
 - ③地域保健
 - ④センター

II. 承認事項

1. 沖縄県歯科医師会会員の種別変更について
2. 沖縄県歯科医師会疾病共済金給付申請について
3. 職員の産前産後・育児休暇の申請について

III. 議事事項

- 第1号議案 沖縄県歯科医師会会長表彰に関する件
- 第2号議案 歯科診療所永年勤続表彰者に関する件
- 第3号議案 第41回日本障害者歯科学会の会場に関する件

IV. 協議事項

1. 令和5年度事業計画について
2. 沖縄県・沖縄県歯科医師会連絡協議会協議題について

V. その他

1. 新年会の次第について

2. 第56回沖縄県知的障がい者教育・福祉・就労研究大会における広告掲載について
3. 職員の退職届けについて
4. 口腔保健医療センター受診状況について
5. オンライン資格確認カードリーダー導入についてのアンケートについて
6. 抗原検査キットの販売について

■ 令和4年度 第17回定時理事会 令和4年12月13日(火) 午後8時 口腔保健医療センター

I. 報告事項

1. 令和4年度第3回沖縄県がん診療連携協議会出席報告
2. 令和4年度沖縄県死因究明等推進協議会出席報告
3. 「九州」「中国・四国」地区歯科医師会役員」連絡協議会出席報告
4. 令和4年度都道府県歯科医師会広報担当理事連絡協議会出席報告
5. 都道府県事務長事務連絡会出席報告
6. 令和4年度沖縄県災害医療コーディネート研修の開催について
7. 日本歯科医師会主催「嚥下機能評価研修会～嚥下内視鏡検査実習～」の開催について
8. 「復帰50周年記念 沖縄県女性活躍推進シンポジウム～一人ひとりが輝く未来へ～」の開催について
9. 「日本地域包括ケア学会第4回大会」の周知について
10. 「日本糖尿病協会 登録歯科医のための講習会」への協力について
11. 沖縄こどもの未来県民会議への募金等の協力について
12. 新型コロナウイルス感染症第8波の拡大を踏まえて
13. 新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正について
14. 毎月勤労統計調査（第1種事業所調査）への調査協力依頼について
15. 冬期の省エネルギーの取組について
16. むし歯予防啓発ポスターの送付について
17. 令和4年度沖縄県医事功労者の決定について
18. 第56回沖縄県母子保健大会における県知事表彰の決定について
19. 第56回沖縄県母子保健大会における大会長表彰の決定について
20. 令和4年度沖縄県学校保健功労者の被表彰者の決定について
21. 電子処方箋に関するオンライン説明会の実施等について
22. 医師法第17条、歯科医師法第17条及び保健師助産師看護師法第31条の解釈について（その2）
23. 新型コロナウイルス感染症対応「日本歯科医師会休診保障制度」について
24. 身元不明遺体に関する捜査協力依頼について
25. マイナンバーカードの取得、健康保険証利用申込み及び公金受取口座登録の促進について
26. 「令和4年度日歯生涯研修セミナー（九州地区・熊本県会場）」の開催について
27. 診療報酬改定結果検証調査「在宅医療、在宅歯科医療、在宅訪問薬剤管理及び訪問看護の実施状況調査」・「明細書の無料発行の実施状況調査」の実施に係る会員各位への周知について
28. 沖縄県子ども医療費助成制度と災害共済給付制度について
29. 沖縄県子ども医療費助成制度と他の公費負担医療制度について
30. 年末年始期間中に帰省される方への検査受検の呼びかけについて
31. 歯科における麻酔管理の需要と供給に関するアンケート調査への協力のお願について
32. 「安全な歯科医療を提供するバイタルサインセミナー」の企画について—日本歯科医学会専門分科会・日本歯科麻酔学会からの提案—
33. 委員会報告
 - ①学術
 - ②学校教務
 - ③学校歯科
 - ④保険

II. 承認事項

1. 沖縄県歯科医師会会員の退会について
2. 沖縄県歯科医師会疾病共済金給付申請について

3. 沖縄県歯科医師会死亡共済金給付申請について
4. 沖縄県歯科医師会終身会員申請について
5. 沖縄県歯科医師会職員の表彰について
6. 「第19回沖縄県介護支援専門員研究大会in読谷」開催における後援名義の使用について
7. 第56回沖縄県知的障がい者教育・福祉・就労研究大会の後援について

Ⅲ. 議事事項

- 第1号議案 第52回新1年生おめでとうの集い協賛と講師派遣依頼に関する件
- 第2号議案 日本歯科医師会創立120周年記念表彰推薦依頼に関する件
- 第3号議案 厚生分野に係る令和5年秋の叙勲及び褒賞候補者の推薦に関する件
- 第4号議案 沖縄県食育推進協議会委員の就任依頼に関する件

Ⅳ. 協議事項

1. 令和5年度事業計画について
2. 沖縄県学校保健統計調査について

Ⅴ. その他

1. 令和4年度沖縄県・沖縄県歯科医師会連絡協議会協議題について
2. 九地連協議会の協議題について
3. 令和4年度第2回九州各県歯科医師会専務理事会提出協議題について
4. センター診療状況について
5. 職員の退職について
6. 職員の人事について
7. 新年会について
8. 販売品について

■ 令和4年度 第18回定時理事会 令和4年12月27日(火) 午後8時 口腔保健医療センター

Ⅰ. 報告事項

1. 令和4年度第2回沖縄県認知症疾患連携協議会出席報告
2. 第4回沖縄県立学校保健会理事会出席報告
3. 第50回日本歯科麻酔学会総会および学術大会出席報告
4. 令和4年度生涯研修セミナー（Bチーム・第2回）について
5. 「レセック3」の事業終了に関するユーザ向け通知の提供について
6. 新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正について
7. 公益社団法人日本歯科医師会代議員及予備代議員の選出について
8. H P K I 需要検証事業について
9. がん診療連携登録歯科医名簿の更新について
10. 年末年始（12/28～1/4）における副作用等報告、不具合等報告及び予防接種後副反応疑い報告に係る受付並びに取扱いについて
11. 補助金の特別補助要件である12月末の顔認証付きカードリーダー申込みについて
12. 麻酔管理の需要と供給に関するアンケート調査への協力依頼について
13. 令和5年度税制改正大綱について
14. 令和5年度歯科保健医療施策関係予算案について（PressRelease）
15. 令和5年度の歯科保健医療施策関係予算案について
16. オンライン資格確認の経過措置ならびに薬価改定に伴う診療報酬の個別項目の見直しについて
 - ①センター
 - ②保険

II. 承認事項

1. 沖縄県歯科医師会会員の退会について
2. 沖縄県歯科医師会死亡共済金給付申請について
3. 沖縄県歯科医師会疾病共済金給付申請について
4. 沖縄県歯科医師会終身会員申請について
5. 職員の採用について

III. 議事事項

- 第1号議案 令和5年度事業計画に関する件
 第2号議案 沖縄県国民保護協議会委員及び幹事の就任依頼に関する件

IV. 協議事項

1. 令和5年度各会計予算案について

V. その他

1. 九地連協議会提出協議題について
2. 小規模県歯科医師会役員懇話会の質問・要望について
3. 各地区会長会・臨時代議員会の開催方法について
4. 年賀状の廃止について
5. 事務局員の採用について

■ 令和4年度 第19回定時理事会 令和5年1月10日(火) 午後8時 口腔保健医療センター

I. 報告事項

1. 令和4年度歯がんじゅう月間イベント開催報告
2. 令和4年度歯科衛生士復職支援セミナー開催報告
3. 外国人患者受入医療コーディネーター養成研修について
4. 「フッ化物洗口の推進に関する基本的な考え方」について
5. おきなわ物価高対策支援金事業の申請期間延長について
6. 「特定保険医療材料及びその材料価格（材料価格基準）の一部改正に伴う特定保険医療材料（使用歯科材料）の算定について」の一部改正について
7. 令和4年度生涯研修セミナー（Aチーム・第2回）について
8. 第198回定時代議員会の要望事項に係る現況報告について
9. 第199回臨時代議員会「地区代表事前質問・個人事前質問」について
10. 委員会報告
 - ①学校
 - ②学校教務
 - ③学術
 - ④選挙管理

II. 承認事項

1. 沖縄県歯科医師会会員（第1種会員）の入会について

III. 議事事項

- 第1号議案 令和4年度県内国公立大学薬学設置シンポジウムに係る後援に関する件
 第2号議案 沖縄県民生委員児童委員協議会発足50周年記念第31回沖縄県民生委員児童委員大会の後援依頼に関する件
 第3号議案 令和4年度第1回臨時代議員会上程事項に関する件
 第4号議案 沖縄県歯科医師会会長予備選挙開催日に関する件
 第5号議案 令和5年度定時代議員会開催日に関する件

IV. 協議事項

1. 令和5年度各会計予算案について
2. 定時理事会の開催方法について

V. その他

1. 新年会について
2. 令和4年度第2回九地連協議会における提出協議題について
3. センター診療状況について

編集後記

ペーパーレス化がどんどん進む現在、会でも完全ペーパーレスに向けて試行錯誤の日々が続いている。しかしながら完全に、というにはまだまだ時間がかかりそうだ。

そもそも大昔、筆を使って絵や文字を書いていた時代から考えると、様々な技術が進み、印刷の機械ができ、タイプライターからワープロそしてパソコンからスマホへ。送る手段としては、郵送からFaxそしてメール（パソコンからスマホへ）。そしてついには各グループに分けて文書データだけでなく、画像や動画まで一斉送信できる『LINE』が誕生。

仕事場にいなければ確認できなかったFaxから自宅の部屋でも確認できるデスクトップパソコンへ。そして外出先へ持ち運びできる小型・薄型・軽量ノートパソコンからついにはポケットへ入るサイズのスマホへ。改めて考えるとビックリ！

ある程度幅のある年齢層の中で、やはりこれだけ急速に機械や技術の進歩があると悩むのも当然、ついていけない人（自分も含んで）がいて当たり前前の時代だ。こんな状況の中、完全ペーパーレスが実現できたらすごいことだと思う。

真喜屋

沖縄タイムス「歯の長寿学」 原稿募集について

沖縄県歯科医師会は、月1で沖縄タイムスの「歯の長寿学」欄に会員の先生のコラムを掲載しています。

内容は、歯の健康にまつわる事なら、なんでも構いません。報酬はありませんが、医院名や先生のお名前は掲載されますので、イメージアップにつながるかと思えます。

1. 掲載内容：歯の健康について(分かりやすく中学生が理解できる程度で、面白い内容をお願いします)
2. 文字数：800字
3. 掲載日：第3水曜日
4. 送付先：沖縄県歯科医師会事務局
・メール：okisi@okisi.org ・Fax：098-996-3562 ・郵送：〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-1
5. 原稿料：なし

*誠に申し訳ありませんが、原稿の採用および掲載日については、広報委員会に一任頂きたいと思えます。

*同じタイトルや同じような内容の投稿に関しては、掲載されないこともあります。

*掲載が決まりましたら事前に校正していただくことがございます。

*ご不明な点がございましたら、事務局または広報委員までお問い合わせください。

沖縄県歯科医師会HPについて

沖縄県歯科医師会のホームページ(<http://www.okisi.org/>)では、「歯医者をさがす」のコーナーで、会員の先生方の医院の紹介をしています。内容に誤りや変更がある場合、訂正いたしますので、事務局までご連絡ください。

また、ホームページ全体の改善点やご要望がありましたら、事務局または広報委員まで、ご意見お寄せください。

広報委員：梅村 誠、長堂 芳子、小場 幸夫、上原 かな、島袋 亮、砂川 和徳、真喜屋 建

令和5年1号

印刷日：令和5年1月25日

発行人：(一社)沖縄県歯科医師会

編集人：梅村 誠

発行日：令和5年1月25日

☎098 (996) 3561

印刷：(株)ちとせ印刷

<http://www.okisi.org/>

E-mail chitose.f@gamma.ocn.ne.jp

8020達成者認定証の発行について

平素より本会会務運営にご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、このたび本会では会員からご推薦いただいた8020達成者に標記の認定証を発行する事といたしました。

つきましては、該当者がいらっしゃいましたら別添の推薦様式にて、ご推薦いただきたく存じます。

過去に8020表彰を受けていらっしゃる方も認定証という事で改めて対象になります。

認定証は会員診療所に送付いたしますので、会員から達成者にお渡しいただきたく存じます。

会員各位のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



連絡先

沖縄県歯科医師会事務局

TEL : 098-996-3561 FAX : 098-996-3562

8020達成者推薦書

沖縄県歯科医師会会長 殿

推薦者

医院名： _____

氏 名： _____

令和 年 月 日

以下の通り推薦申し上げます。

8020達成者推薦書		
氏 名	ふりがな	性 別
		男・女
生年月日(年齢)	明・大・昭 年 月 日 () 歳	
ご本人連絡先	住 所	〒(-)
	電話番号	
現 在 歯 数	本	
自 立 状 態 (あてはまるものに○)	① 自力歩行可 ② 介助有りて歩行可 ③ 車いす ④ 外出困難 ⑤ その他 ()	
補 綴 状 態 (あてはまるものに○)	① 不 要 ② 良 好 ③ 要 改 善	
特 記 事 項		

※県歯事務局へ郵送またはFAXにてご提出ください
(FAX : 098-996-3562)

会員動向

会員：令和5年1月1日 現在503人

内 訳

種 別	男	女	計
1 種 会 員	307	44	351
2 種 会 員	13	3	16
3 種 会 員	33	16	49
4 種 会 員	1	0	1
終 身 会 員	74	12	86
計	428	75	503

入・退会状況（1種・2種・終身）（正会員）

種 別	男	女	計
入 会 者	0	1	1
退 会 者	4	1	5
計	-4	0	-4

正会員地区別

地 区	男	女	計
北 部 地 区	23	1	24
中 部 地 区	119	14	133
南 部 地 区	220	37	257
宮 古 地 区	16	7	23
八 重 山 地 区	16	0	16
計	394	59	453

入・退会状況（3種・4種準会員）

地 区	男	女	計
入 会 者	0	0	0
退 会 者	0	0	0
計	0	0	0

退会会員（5名）

氏 名	日 付	理 由
安 藤 順 司	令和4年10月27日	ご逝去（中部地区会員）1種会員
古 堅 讓	令和4年11月13日	ご逝去（南部地区会員）1種会員
高江洲 勲	令和4年11月30日	ご逝去（南部地区会員）終身会員
林 房 子	令和4年12月3日	ご逝去（南部地区会員）終身会員
平 田 竜 司	令和4年12月31日	一身上の都合（中部地区会員）1種会員

異動会員（2名）

氏 名	日 付	理 由
新 崎 章	令和4年4月1日	3種会員→4種会員
林 秀 樹	令和4年12月1日	1種会員→2種会員（南部地区会員）

会員動静（新入会員1名）

氏 名	生年月日	医 院 名	就 業 所 所 在 地	出 身 校	卒 業 年 月	会 員 種 別	入 会 日
仲 本 道 子	S47.12.19	かめーる歯科	豊見城市我那覇643	明海大学歯学部	H10.3	1種会員	令和5年1月1日

安心安全の高濃度弱酸性次亜水 **ハセツパー**除菌水

Haccpper®

様々なシーンで手指衛生や物品除菌、消臭対策、清掃に活用され、室内の衛生管理向上に幅広く使用されているハセツパー除菌水。細菌・ウイルスには強力に作用しますが、自然環境や人体にも優しく、安全性も高く評価されております。

専用加湿器でハセツパー除菌水の噴霧を行うことで快適な空間も創造できます。

【細菌・ウイルスは単独で浮遊することではなく、目にみえないチリやホコリに付着して漂います。ハセツパー除菌水を噴霧することで人が過ごしやすい環境を創り、チリなどに付着した細菌・ウイルスをハセツパー除菌水が包み込み、空間汚染を抑制できます。】

ー 県内 35 院でご使用頂いております。※たまき歯科医院 院長おすすめ。ー

沖縄県産品認定キャンペーン

今ならハセツパー除菌水(20L)1箱、新規ご購入で専用加湿器を1台プレゼント!



※～期間 2023年4月末まで～

(加湿器の機種等は変更する場合があります)

400ppm 20ℓ (税込 15,400円)

希釈100ppm (192円/ℓ) 50ppm (96円/ℓ)

参考：アルコール (300円/ℓ)



2022年8月22日付沖縄県産品として認定されました



適応範囲

木造和室

約 **5** 畳

プレハブ洋室

約 **8** 畳

製造元：株式会社サンプランニング 〒902-0063 沖縄県那覇市三原2丁目37-14 シャトレ 81 1F TEL 098-894-6903 FAX 098-894-6904

販売元：リユーセロ株式会社 〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町4丁目9番地の4 TEL 098-992-3502 FAX 098-992-3546

オーディーエー便り

有限会社オーディーエーは、ホームページを公開しました。
ODA南風原で検索しますとトップに出てきますので、
是非ご覧になって下さい。

今回は医師賠償責任保険とクレーム対応費用保険の違いについて、ご案内いたします。

医師賠償責任保険は、医療事故や診療所側の不注意による患者様のケガ、給排水管からの水漏れで階下のテナントに損害を与えた等の賠償を補償します。

クレーム対応費用保険は、他人が診療所に対して暴行、脅迫、強要、セクハラ、インターネットに書き込みなどのクレーム行為をした時に、弁護士に委任した場合の費用を補償します。

(但し、1万円+弁護士費用の10%が自己負担となります)

生命保険の豆知識

独身の時にご加入された生命保険の受取人についてですが、ご結婚後に受取人を奥様またはお子様に変更されてますか。受取人を親のまま変更しないで亡くなると、親が受け取った保険金を息子の妻に渡すと贈与になり、贈与税がかかります。

今一度、保険証券をご確認下さい。

お問い合わせ先

有限会社 オーディーエー

担当 奥原

TEL/FAX(098)996-3572

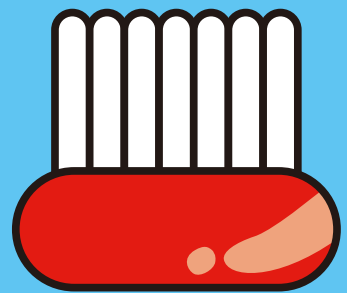
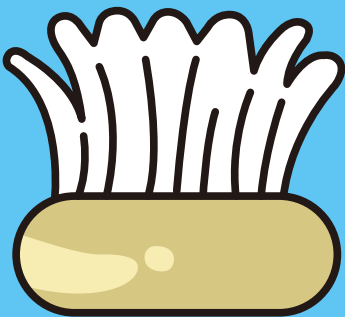
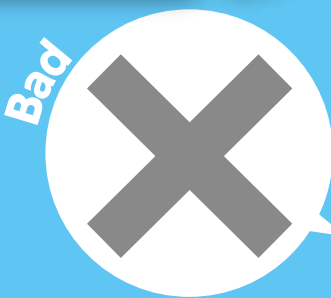
沖縄県の
健康長寿復活に向けて



毎月  日は

沖縄県歯科医師会制定

歯ブラシの日



日本歯科医師会PRキャラクター よ坊さん(沖縄県)



(一社) 沖縄県歯科医師会

TEL 098-996-3561